

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of :
Yoshiteru TANAKA et al. :
Serial No. NEW : **Attn: APPLICATION BRANCH**
Filed January 5, 2004 : **Attorney Docket No. 2003_1907A**
BUS ARBITER :

CLAIM OF PRIORITY UNDER 35 USC 119

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

THE COMMISSIONER IS AUTHORIZED
TO CHARGE ANY DEFICIENCY IN THE
FEES FOR THIS PAPER TO DEPOSIT
ACCOUNT NO. 23-0975

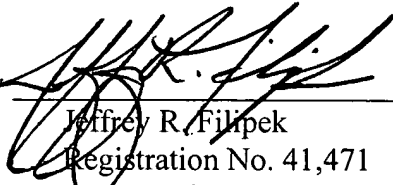
Sir:

Applicants in the above-entitled application hereby claim the date of priority under the International Convention of Japanese Patent Application No. 2003-000818, filed January 7, 2003, as acknowledged in the Declaration of this application.

A certified copy of said Japanese Patent Application is submitted herewith.

Respectfully submitted,

Yoshiteru TANAKA et al.

By 
Jeffrey R. Filipek
Registration No. 41,471
Attorney for Applicants

JRF/fs
Washington, D.C. 20006-1021
Telephone (202) 721-8200
Facsimile (202) 721-8250
January 5, 2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 1月 7日
Date of Application:

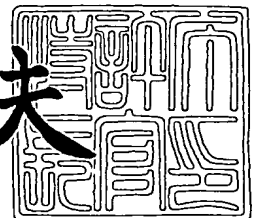
出願番号 特願2003-000818
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2003-000818]

出願人 松下電器産業株式会社
Applicant(s):

2003年 9月 4日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3072509

【書類名】 特許願

【整理番号】 2038240109

【提出日】 平成15年 1月 7日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 13/362

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 田中 義照

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 西田 要一

【特許出願人】

【識別番号】 000005821

【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100097179

【弁理士】

【氏名又は名称】 平野 一幸

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 058698

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0013529

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 バス調停装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 バスに接続される複数のモジュール間のデータ転送要求を調停するバス調停装置であって、

所定のバス帯域幅で規定されるバス帯域割付周期を表す情報を記憶するバス帯域割付周期記憶手段と、

前記複数のモジュールのうちの所定の前記モジュールに予め割り当てるバス帯域幅である予約バス帯域幅を表す情報を記憶する予約バス帯域幅記憶手段と、

前記バス帯域割付周期と前記予約バス帯域幅との差である残り予約バス帯域幅を表す情報を記憶する残り予約バス帯域幅記憶手段と、

前記予約バス帯域幅が割り当てられた前記所定のモジュールのデータ転送要求が許可される度に、前記予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を算出し、かつ、前記残り予約バス帯域幅を使用する前記モジュールのデータ転送要求が許可される度に、前記残り予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を算出する残りバス帯域幅算出手段と、

前記予約バス帯域幅記憶手段が記憶する前記予約バス帯域幅を表す情報を初期値として記憶し、かつ、前記残りバス帯域幅算出手段が算出した、前記予約バス帯域幅の前記残りのバス帯域幅を表す情報を記憶する第 1 の更新バス帯域幅記憶手段と、

前記残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する前記残り予約バス帯域幅を表す情報を初期値として記憶し、かつ、前記残りバス帯域幅算出手段が算出した、前記残り予約バス帯域幅の前記残りのバス帯域幅を表す情報を記憶する第 2 の更新バス帯域幅記憶手段と、

前記複数のモジュールに対応して設けられ、各々が、対応する前記モジュールに割り当てられた、前記第 1 の更新バス帯域幅記憶手段あるいは前記第 2 の更新バス帯域幅記憶手段、を表す情報を記憶する複数の更新バス帯域幅指定記憶手段と、

前記モジュールからのデータ転送要求があった場合に、当該モジュールに対応

する前記更新バス帯域幅指定記憶手段が記憶する前記情報が表す前記第 1 の更新バス帯域幅記憶手段又は前記第 2 の更新バス帯域幅記憶手段を参照して、参照した前記第 1 の更新バス帯域幅記憶手段又は前記第 2 の更新バス帯域幅記憶手段が記憶している前記残りのバス帯域幅が「0」でないときに、当該モジュールがデータ転送要求を許可する候補であることを示す転送許可候補通知信号を生成する転送許可候補決定手段と、

所定の規則に従って、前記転送許可候補通知信号が示す前記モジュールからのデータ転送要求の許否を決定する転送許可決定手段と、を備え、

前記予約バス帯域幅が割り当てられた前記所定のモジュールに対応する前記更新バス帯域幅指定記憶手段には、前記第 1 の更新バス帯域幅記憶手段を表す情報が記憶され、

前記残り予約バス帯域幅を使用する前記モジュールに対応する前記更新バス帯域幅指定記憶手段には、前記第 2 の更新バス帯域幅記憶手段を表す情報が記憶され、

前記バス帯域割付周期が経過する度に、前記第 1 の更新バス帯域幅記憶手段には、前記予約バス帯域幅記憶手段が記憶する前記予約バス帯域幅を表す情報が初期値として記憶され、

前記バス帯域割付周期が経過する度に、前記第 2 の更新バス帯域幅記憶手段には、前記残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する前記残り予約バス帯域幅を表す情報が初期値として記憶される、ことを特徴とするバス調停装置。

【請求項 2】前記所定のモジュールは複数であり、

前記予約バス帯域幅記憶手段は、前記複数の所定のモジュールに対応して、複数設けられ、

前記第 1 の更新バス帯域幅記憶手段は、前記複数の予約バス帯域幅記憶手段に対応して、複数設けられる、ことを特徴とする請求項 1 記載のバス調停装置。

【請求項 3】前記残りバス帯域幅算出手段は、前記予約バス帯域幅の前記残りのバス帯域幅が「0」になった場合、特定の前記モジュールに対して、前記予約バス帯域幅が割り当てられた前記所定のモジュールが前記予約バス帯域幅を全て消費した旨を通知する、ことを特徴とする請求項 1 又は 2 記載のバス調停装置。

【請求項 4】バスに接続される複数のモジュール間のデータ転送要求を調停するバス調停装置であって、

所定のバス帯域幅で規定されるバス帯域割付周期と、前記複数のモジュールのうちの所定の前記モジュールに予め割り当てるバス帯域幅である予約バス帯域幅と、の差である残り予約バス帯域幅を表す情報を記憶する残り予約バス帯域幅記憶手段、を備える、ことを特徴とするバス調停装置。

【請求項 5】前記バス帯域割付周期を表す情報を記憶するバス帯域割付周期記憶手段、をさらに備える、ことを特徴とする請求項 4 記載のバス調停装置。

【請求項 6】前記予約バス帯域幅を表す情報を記憶する予約バス帯域幅記憶手段、をさらに備える、ことを特徴とする請求項 4 又は 5 記載のバス調停装置。

【請求項 7】前記予約バス帯域幅を、前記所定のモジュールが全て消費した場合、特定の前記モジュールに対して、前記予約バス帯域幅を全て消費した旨が通知される、ことを特徴とする請求項 4 から 6 記載のバス調停装置。

【請求項 8】前記所定のモジュールは複数であり、
前記残り予約バス帯域幅記憶手段は、前記バス帯域割付周期と、複数の前記予約バス帯域幅の合計と、の差である残り予約バス帯域幅を表す情報を記憶する、ことを特徴とする請求項 4 から 7 記載のバス調停装置。

【請求項 9】バスに接続されるタスクマネージャが管理する複数のタスクのデータ転送要求を調停するバス調停装置であって、

所定のバス帯域幅で規定されるバス帯域割付周期を表す情報を記憶するバス帯域割付周期記憶手段と、

前記複数のタスクのうちの所定の前記タスクに予め割り当てるバス帯域幅である予約バス帯域幅を表す情報を記憶する予約バス帯域幅記憶手段と、

前記バス帯域割付周期と前記予約バス帯域幅との差である残り予約バス帯域幅を表す情報を記憶する残り予約バス帯域幅記憶手段と、

前記予約バス帯域幅が割り当てられた前記所定のタスクのデータ転送要求が許可される度に、前記予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を算出し、かつ、前記残り予約バス帯域幅を使用する前記タスクのデータ転送要求が許可される度に、前記残り予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を算出する残りバス帯域幅算出手段と

前記予約バス帯域幅記憶手段が記憶する前記予約バス帯域幅を表す情報を初期値として記憶し、かつ、前記残りバス帯域幅算出手段が算出した、前記予約バス帯域幅の前記残りのバス帯域幅を表す情報を記憶する第1の更新バス帯域幅記憶手段と、

前記残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する前記残り予約バス帯域幅を表す情報を初期値として記憶し、かつ、前記残りバス帯域幅算出手段が算出した、前記残り予約バス帯域幅の前記残りのバス帯域幅を表す情報を記憶する第2の更新バス帯域幅記憶手段と、

前記複数のタスクに対応して設けられ、各々が、対応する前記タスクに割り当てられた、前記第1の更新バス帯域幅記憶手段あるいは前記第2の更新バス帯域幅記憶手段、を表す情報を記憶する複数の更新バス帯域幅指定記憶手段と、

前記タスクからのデータ転送要求があった場合に、当該タスクに対応する前記更新バス帯域幅指定記憶手段が記憶する前記情報が表す前記第1の更新バス帯域幅記憶手段又は前記第2の更新バス帯域幅記憶手段を参照して、参照した前記第1の更新バス帯域幅記憶手段又は前記第2の更新バス帯域幅記憶手段が記憶している前記残りのバス帯域幅が「0」でないときに、当該タスクがデータ転送要求を許可する候補であることを示す転送許可候補通知信号を生成する転送許可候補決定手段と、

所定の規則に従って、前記転送許可候補通知信号が示す前記タスクからのデータ転送要求の許否を決定する転送許可決定手段と、を備え、

前記予約バス帯域幅が割り当てられた前記所定のタスクに対応する前記更新バス帯域幅指定記憶手段には、前記第1の更新バス帯域幅記憶手段を表す情報が記憶され、

前記残り予約バス帯域幅を使用する前記タスクに対応する前記更新バス帯域幅指定記憶手段には、前記第2の更新バス帯域幅記憶手段を表す情報が記憶され、

前記バス帯域割付周期が経過する度に、前記第1の更新バス帯域幅記憶手段には、前記予約バス帯域幅記憶手段が記憶する前記予約バス帯域幅を表す情報が初期値として記憶され、

前記バス帯域割付周期が経過する度に、前記第2の更新バス帯域幅記憶手段には、前記残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する前記残り予約バス帯域幅を表す情報が初期値として記憶される、ことを特徴とするバス調停装置。

【請求項10】前記所定のタスクは複数であり、

前記予約バス帯域幅記憶手段は、前記複数の所定のタスクに対応して、複数設けられ、

前記第1の更新バス帯域幅記憶手段は、前記複数の予約バス帯域幅記憶手段に対応して、複数設けられる、ことを特徴とする請求項9記載のバス調停装置。

【請求項11】前記残りバス帯域幅算出手段は、前記予約バス帯域幅の前記残りのバス帯域幅が「0」になった場合、前記タスクマネージャに対して、前記予約バス帯域幅が割り当てられた前記所定のタスクが前記予約バス帯域幅を全て消費した旨を通知する、ことを特徴とする請求項9又は10記載のバス調停装置。

【請求項12】バスに接続されるタスクマネージャが管理する複数のタスク間のデータ転送要求を調停するバス調停装置であって、

所定のバス帯域幅で規定されるバス帯域割付周期と、前記複数のタスクのうちの所定の前記タスクに予め割り当てるバス帯域幅である予約バス帯域幅と、の差である残り予約バス帯域幅を表す情報を記憶する残り予約バス帯域幅記憶手段、を備える、ことを特徴とするバス調停装置。

【請求項13】前記バス帯域割付周期を表す情報を記憶するバス帯域割付周期記憶手段、をさらに備える、ことを特徴とする請求項12記載のバス調停装置。

【請求項14】前記予約バス帯域幅を表す情報を記憶する予約バス帯域幅記憶手段、をさらに備える、ことを特徴とする請求項12又は13記載のバス調停装置。

【請求項15】前記予約バス帯域幅を、前記所定のタスクが全て消費した場合、前記タスクマネージャに対して、前記予約バス帯域幅を全て消費した旨が通知される、ことを特徴とする請求項12から14記載のバス調停装置。

【請求項16】前記所定のタスクは複数であり、

前記残り予約バス帯域幅記憶手段は、前記バス帯域割付周期と、複数の前記予約バス帯域幅の合計と、の差である残り予約バス帯域幅を表す情報を記憶する、

ことを特徴とする請求項 12 から 15 記載のバス調停装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、バスに接続される複数のモジュール間の調停を行うバス調停装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

第3世代携帯電話の登場などにより、動画や音声といった複数のリアルタイム処理やメールなどの非リアルタイム処理を実現するシステムが求められている。

【0003】

このシステムは、バスに接続された複数のモジュール、および、モジュール間のデータ転送を調停するバス調停装置、を具備している。

【0004】

なお、モジュールとは、処理を実行するハードウェアである。また、バスに接続されたモジュールの1つは、プロセッサである。

【0005】

さて、リアルタイム処理とは、定められた処理の実行に時間制限を持つ処理である。一方、非リアルタイム処理とは、時間制限を持たない処理である。

【0006】

これら双方の処理を実現するシステムは、リアルタイム処理を行うモジュール（以下、「リアルタイム・モジュール」と呼ぶ。）、及び、非リアルタイム処理を行うモジュール（以下、「非リアルタイム・モジュール」と呼ぶ。）、を含む。

【0007】

リアルタイム・モジュールは、定められた処理を制限時間内に行うために、必要となるデータの転送も制限時間内に行う必要がある。

【0008】

リアルタイム処理及び非リアルタイム処理の双方を実現するシステムにおいて

、メモリ資源などが空間的な共有資源であるのに対し、バスは双方の処理で共通に使用する時間的な共有資源である。

【0 0 0 9】

従って、非リアルタイム・モジュールが、バス帯域幅を使い切ってしまった場合は、リアルタイム・モジュールは、メモリ資源を確保できても、処理に必要なデータを転送できず、制限時間内に処理を行うことができない。

【0 0 1 0】

そこで、従来より、モジュールからのデータ転送要求を調停するバス調停装置を設けて、バス帯域幅を保証する制御が行われている。

【0 0 1 1】

例えば、下記の特許文献 1 には、重み付き帯域幅配分を備えたバス調停装置が開示されている。

【0 0 1 2】

このバス調停装置は、調停対象のモジュールに、バス帯域幅を配分するための重み与えて、タイムスロットを割り当てることにより、バス帯域幅を確保している。

【0 0 1 3】

これにより、リアルタイム・モジュールは、予め与えられたバス帯域幅を用いて、動画や音声といったリアルタイム処理を実現することができる。

【0 0 1 4】**【特許文献 1】**

特表 2 0 0 0 - 5 0 0 8 9 5 号公報

【0 0 1 5】**【発明が解決しようとする課題】**

ここで、例えば、MPEG-4 (Moving Picture Experts Group 4) などの動画像圧縮・伸張を行うモジュールに対し、処理する動画像の画面サイズを、QCIF (176画素×144画素) からCIF (352画素×288画素) に拡張する要求があった場合を想定する。

【0 0 1 6】

この場合は、定められた制限時間内で当該モジュールが処理しなければならないデータ量が増大する。

【0017】

そうすると、上記した従来のバス調停装置では、予めモジュールに割り当てたバス帯域幅で処理を行うため、増大したデータ量を扱うことができない。

【0018】

従って、定められた制限時間内にモジュールの処理を完結できず、リアルタイム性を破綻させることがある。

【0019】

そこで、本発明は、バスの帯域幅不足により処理が破綻するか否かを予め判定できるバス調停装置を提供することを目的とする。

【0020】

【課題を解決するための手段】

本発明に係るバス調停装置は、バスに接続される複数のモジュール間のデータ転送要求を調停するバス調停装置であって、バス帯域割付周期記憶手段と、予約バス帯域幅記憶手段と、残り予約バス帯域幅記憶手段と、残りバス帯域幅算出手段と、第1の更新バス帯域幅記憶手段と、第2の更新バス帯域幅記憶手段と、複数の更新バス帯域幅指定記憶手段と、転送許可候補決定手段と、転送許可決定手段と、を備える。

【0021】

バス帯域割付周期記憶手段は、所定のバス帯域幅で規定されるバス帯域割付周期を表す情報を記憶する。

【0022】

予約バス帯域幅記憶手段は、複数のモジュールのうちの所定のモジュールに予め割り当てるバス帯域幅である予約バス帯域幅を表す情報を記憶する。

【0023】

残り予約バス帯域幅記憶手段は、バス帯域割付周期と予約バス帯域幅との差である残り予約バス帯域幅を表す情報を記憶する。

【0024】

残りバス帯域幅算出手段は、予約バス帯域幅が割り当てられた所定のモジュールのデータ転送要求が許可される度に、予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を算出し、かつ、残り予約バス帯域幅を使用するモジュールのデータ転送要求が許可される度に、残り予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を算出する。

【 0 0 2 5 】

第 1 の更新バス帯域幅記憶手段は、予約バス帯域幅記憶手段が記憶する予約バス帯域幅を表す情報を初期値として記憶し、かつ、残りバス帯域幅算出手段が算出した、予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を表す情報を記憶する。

【 0 0 2 6 】

第 2 の更新バス帯域幅記憶手段は、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する残り予約バス帯域幅を表す情報を初期値として記憶し、かつ、残りバス帯域幅算出手段が算出した、残り予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を表す情報を記憶する。

【 0 0 2 7 】

複数の更新バス帯域幅指定記憶手段は、複数のモジュールに対応して設けられる。そして、更新バス帯域幅指定記憶手段は、対応するモジュールに割り当てられた、第 1 の更新バス帯域幅記憶手段あるいは第 2 の更新バス帯域幅記憶手段、を表す情報を記憶する。

【 0 0 2 8 】

転送許可候補決定手段は、モジュールからのデータ転送要求があった場合に、当該モジュールに対応する更新バス帯域幅指定記憶手段が記憶する情報が表す第 1 の更新バス帯域幅記憶手段又は第 2 の更新バス帯域幅記憶手段を参照して、参照した第 1 の更新バス帯域幅記憶手段又は第 2 の更新バス帯域幅記憶手段が記憶している残りのバス帯域幅が「0」でないときに、当該モジュールがデータ転送要求を許可する候補であることを示す転送許可候補通知信号を生成する。

【 0 0 2 9 】

転送許可決定手段は、所定の規則に従って、転送許可候補通知信号が示すモジュールからのデータ転送要求の許否を決定する。

【 0 0 3 0 】

予約バス帯域幅が割り当てられた所定のモジュールに対応する更新バス帯域幅指定記憶手段には、第 1 の更新バス帯域幅記憶手段を表す情報が記憶される。

【0 0 3 1】

残り予約バス帯域幅を使用するモジュールに対応する更新バス帯域幅指定記憶手段には、第 2 の更新バス帯域幅記憶手段を表す情報が記憶される。

【0 0 3 2】

バス帯域割付周期が経過する度に、第 1 の更新バス帯域幅記憶手段には、予約バス帯域幅記憶手段が記憶する予約バス帯域幅を表す情報が初期値として記憶される。

【0 0 3 3】

バス帯域割付周期が経過する度に、第 2 の更新バス帯域幅記憶手段には、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する残り予約バス帯域幅を表す情報が初期値として記憶される。

【0 0 3 4】

この構成によれば、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する残り予約バス帯域幅を外部からモニタすることで、バスの帯域幅不足により、これから実行しようとするモジュールによる処理が破綻するか否かを予め判定できる。

【0 0 3 5】

また、バス帯域割付周期記憶手段の設定を外部から変更することで、バス帯域割付周期を変更できる。さらに、予約バス帯域幅記憶手段の設定を外部から変更することで、予約バス帯域幅を変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【0 0 3 6】

さらに、上記バス調停装置では、次のように構成することもできる。即ち、上記バス調停装置において、所定のモジュールは複数であり、予約バス帯域幅記憶手段は、複数の所定のモジュールに対応して、複数設けられ、第 1 の更新バス帯域幅記憶手段は、複数の予約バス帯域幅記憶手段に対応して、複数設けられる。

【0 0 3 7】

この構成によれば、より多くのモジュールに対して、バス帯域幅を予め予約で

きる。

【0038】

さらに、上記バス調停装置では、次のように構成することもできる。即ち、上記バス調停装置において、残りバス帯域幅算出手段は、予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅が「0」になった場合、特定のモジュールに対して、予約バス帯域幅が割り当てられた所定のモジュールが予約バス帯域幅を全て消費した旨を通知する。

【0039】

この構成によれば、無駄なデータ転送要求がなされることを防止できる。

【0040】

本発明に係るバス調停装置は、バスに接続されるタスクマネージャが管理する複数のタスクのデータ転送要求を調停するバス調停装置であって、バス帯域割付周期記憶手段と、予約バス帯域幅記憶手段と、残り予約バス帯域幅記憶手段と、残りバス帯域幅算出手段と、第1の更新バス帯域幅記憶手段と、第2の更新バス帯域幅記憶手段と、複数の更新バス帯域幅指定記憶手段と、転送許可候補決定手段と、転送許可決定手段と、を備える。

【0041】

バス帯域割付周期記憶手段は、所定のバス帯域幅で規定されるバス帯域割付周期を表す情報を記憶する。

【0042】

予約バス帯域幅記憶手段は、複数のタスクのうちの所定のタスクに予め割り当てたバス帯域幅である予約バス帯域幅を表す情報を記憶する。

【0043】

残り予約バス帯域幅記憶手段は、バス帯域割付周期と予約バス帯域幅との差である残り予約バス帯域幅を表す情報を記憶する。

【0044】

残りバス帯域幅算出手段は、予約バス帯域幅が割り当てられた所定のタスクのデータ転送要求が許可される度に、予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を算出し、かつ、残り予約バス帯域幅を使用するタスクのデータ転送要求が許可される度

に、残り予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を算出する。

【 0 0 4 5 】

第 1 の更新バス帯域幅記憶手段は、予約バス帯域幅記憶手段が記憶する予約バス帯域幅を表す情報を初期値として記憶し、かつ、残りバス帯域幅算出手段が算出した、予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を表す情報を記憶する。

【 0 0 4 6 】

第 2 の更新バス帯域幅記憶手段は、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する残り予約バス帯域幅を表す情報を初期値として記憶し、かつ、残りバス帯域幅算出手段が算出した、残り予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅を表す情報を記憶する。

【 0 0 4 7 】

複数の更新バス帯域幅指定記憶手段は、複数のタスクに対応して設けられる。そして、更新バス帯域幅指定記憶手段は、対応するタスクに割り当てられた、第 1 の更新バス帯域幅記憶手段あるいは第 2 の更新バス帯域幅記憶手段、を表す情報を記憶する。

【 0 0 4 8 】

転送許可候補決定手段は、タスクからのデータ転送要求があった場合に、当該タスクに対応する更新バス帯域幅指定記憶手段が記憶する情報が表す第 1 の更新バス帯域幅記憶手段又は第 2 の更新バス帯域幅記憶手段を参照して、参照した第 1 の更新バス帯域幅記憶手段又は第 2 の更新バス帯域幅記憶手段が記憶している残りのバス帯域幅が「0」でないときに、当該タスクがデータ転送要求を許可する候補であることを示す転送許可候補通知信号を生成する。

【 0 0 4 9 】

転送許可決定手段は、所定の規則に従って、転送許可候補通知信号が示すタスクからのデータ転送要求の許否を決定する。

【 0 0 5 0 】

予約バス帯域幅が割り当てられた所定のタスクに対応する更新バス帯域幅指定記憶手段には、第 1 の更新バス帯域幅記憶手段を表す情報が記憶される。

【 0 0 5 1 】

残り予約バス帯域幅を使用するタスクに対応する更新バス帯域幅指定記憶手段には、第2の更新バス帯域幅記憶手段を表す情報が記憶される。

【0052】

バス帯域割付周期が経過する度に、第1の更新バス帯域幅記憶手段には、予約バス帯域幅記憶手段が記憶する予約バス帯域幅を表す情報が初期値として記憶される。

【0053】

バス帯域割付周期が経過する度に、第2の更新バス帯域幅記憶手段には、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する残り予約バス帯域幅を表す情報が初期値として記憶される。

【0054】

この構成によれば、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する残り予約バス帯域幅を外部からモニタすることで、バスの帯域幅不足により、これから実行しようとするタスクによる処理が破綻するか否かを予め判定できる。

【0055】

また、バス帯域割付周期記憶手段の設定を外部から変更することで、バス帯域割付周期を変更できる。さらに、予約バス帯域幅記憶手段の設定を外部から変更することで、予約バス帯域幅を変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【0056】

さらに、上記バス調停装置では、次のように構成することもできる。即ち、上記バス調停装置において、所定のタスクは複数であり、予約バス帯域幅記憶手段は、複数の所定のタスクに対応して、複数設けられ、第1の更新バス帯域幅記憶手段は、複数の予約バス帯域幅記憶手段に対応して、複数設けられる。

【0057】

この構成によれば、より多くのタスクに対して、バス帯域幅を予め予約できる。

【0058】

さらに、上記バス調停装置では、次のように構成することもできる。即ち、上

記バス調停装置において、残りバス帯域幅算出手段は、予約バス帯域幅の残りのバス帯域幅が「0」になった場合、タスクマネージャに対して、予約バス帯域幅が割り当てられた所定のタスクが予約バス帯域幅を全て消費した旨を通知する。

【0059】

この構成によれば、無駄なデータ転送要求がなされることを防止できる。

【0060】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。

（実施の形態1）

【0061】

図1は、本発明の実施の形態1におけるデータ処理装置のブロック図である。図1に示すように、このデータ処理装置は、バス調停装置1、CPU（Central Processing Unit）2、VCE（Video Codec Engine）3、ACE（Audio Codec Engine）4、PCE（Picture Codec Engine）5、および、メモリ6、を具備する。

【0062】

バス調停装置1、CPU2、VCE3、ACE4、PCE5、および、メモリ6は、バス8を介して結合される。

【0063】

また、バス調停装置1、CPU2、VCE3、ACE4、PCE5、および、メモリ6は、データ転送制御線7を介して結合される。

【0064】

バス調停装置1とCPU2とは、バス調停装置1からの割り込み信号線9によって接続される。

【0065】

ここで、CPU2、VCE3、ACE4、およびPCE5の各々を、モジュールと呼ぶこともある。

【0066】

さて、バス調停装置1は、CPU2、VCE3、ACE4、およびPCE5といったモジュールからのデータ転送要求を受けて、各モジュールに対して、スロット単位でデータ転送要求を割り付ける装置である。

【0067】

また、バス調停装置1は、各モジュールに対してバス帯域幅を予約できる機構、および、予約できる残りバス帯域幅をモニタできる機構、を有する。

【0068】

ここで、バス調停装置1は、所定のバスサイクル数（所定のバスクロック数）を1スロットとしている。

【0069】

CPU2は、プログラムを実行するモジュールである。

メモリ6は、データを格納する。

【0070】

VCE3は、メモリ6に格納された画像データに対し、MPEG (Moving Picture Experts Group) などの動画像圧縮・伸張処理を行い、メモリ6に書き戻す動画処理モジュールである。

【0071】

ACE4は、メモリ6に格納された音声データに対し、AMR (Audio/Modem Riser) などの音声データ圧縮・伸張処理を行い、メモリ6に書き戻す音声処理モジュールである。

【0072】

PCE5は、メモリ6に格納された静止画データに対し、JPEG (Joint Photographic Experts Group) などの静止画像圧縮・伸張処理を行い、メモリ6に書き戻す静止画処理モジュールである。

【0073】

図1に示すデータ処理装置によって、動画データ、音声データ及び静止画データを圧縮・伸張する機能を実現する。

【0074】

この際、動画及び音声の圧縮伸張処理はリアルタイム処理であるため、バス調

停装置 1 は、動画処理モジュールである VCE 3 および音声処理モジュールである ACE 4 に対して、リアルタイム処理に必要なバス帯域幅を割り当てる機構を有する。

【0075】

次に、バス調停装置 1 の詳細を説明する。

図 2 は、図 1 のバス調停装置 1 のブロック図である。なお、図 2 において、図 1 と同様の部分については、同一の符号を付している。

【0076】

図 2 に示すように、このバス調停装置 1 は、バス帯域割付周期レジスタ 10、残り予約スロットレジスタ 20、予約スロットレジスタ 21、22、更新スロットレジスタ 30、31、32、更新スロット指定レジスタ 40、41、42、43、残りスロット算出回路 60、転送許可候補決定回路 70、及び、転送許可決定回路 80、を含む。

【0077】

転送許可決定回路 80 は、優先度レジスタ 50、51、52、53、及び、優先順位選択回路 54、を含む。

【0078】

バス帯域割付周期レジスタ 10 は、所定のスロット数で規定されるバス帯域割付周期を表す情報を保存するレジスタである。

【0079】

バス帯域割付周期は、バス帯域割付周期レジスタ 10 に、外部から設定可能である。例えば、CPU 2 が、バス帯域割付周期レジスタ 10 に、バス帯域割付周期を設定することができる。

【0080】

リアルタイム処理を行う VCE 3 および ACE 4 の各々には、予め、所定のバス帯域幅が割り付けられる。この場合、予め割り付けるバス帯域幅は、スロット数で規定されるため、予め割り付けるバス帯域幅を予約スロットと呼ぶ。

【0081】

予約スロットレジスタ 21 は、VCE 3 に割り付ける予約スロットを表す情報

を格納する。

【0082】

VCE3の予約スロットは、予約スロットレジスタ21に、外部から設定可能である。例えば、CPU2が、予約スロットレジスタ21に、VCE3の予約スロットを設定することができる。

【0083】

予約スロットレジスタ22は、ACE4に割り付ける予約スロットを表す情報を格納する。

【0084】

ACE4の予約スロットは、予約スロットレジスタ22に、外部から設定可能である。例えば、CPU2が、予約スロットレジスタ22に、ACE4の予約スロットを設定することができる。

【0085】

残り予約スロットレジスタ20は、バス帯域割付周期から、予約スロットレジスタ21に格納された予約スロットと、予約スロットレジスタ22に格納された予約スロットと、を差し引いた値（以下、「残り予約スロット」と呼ぶ。）を表す情報を格納する。

【0086】

この残り予約スロットを、CPU2とPCE5とで、使用する。

【0087】

ここで、予約スロットレジスタ21，22及び残り予約スロットレジスタ20は、予約スロットテーブルを構成する。

【0088】

図3は、予約スロットテーブルの例示図である。図3の例では、バス帯域割付周期レジスタ10に格納されるバス帯域割付周期は、10スロットである。

【0089】

また、図3の例では、予約スロットレジスタ21に格納されるVCE3の予約スロットは、3スロットである。

【0090】

また、図3の例では、予約スロットレジスタ22に格納されるACE4の予約スロットは、2スロットである。

【0091】

また、図3の例では、残り予約スロットレジスタ20に格納される残り予約スロットは、5スロットである。なぜなら、 $10 - (3 + 2) = 5$ 、だからである。

【0092】

残りスロット算出回路60は、バス帯域割付周期から、予約スロットレジスタ21に格納された予約スロットと、予約スロットレジスタ22に格納された予約スロットと、を差し引いて、残り予約スロットを算出する。

【0093】

残り予約スロットレジスタ20に格納される残り予約スロットは、残りスロット算出回路60により算出されたものである。

【0094】

更新スロットレジスタ31には、初期値（リセット値）として、予約スロットレジスタ21に格納された、VCE3の予約スロットを表す情報が格納される。

【0095】

そして、残りスロット算出回路60は、VCE3のデータ転送要求が許可されると、更新スロットレジスタ31に格納されたVCE3に割り付けられた予約スロットから、1スロット減じて、予約スロットの残りのスロット数を算出する。

【0096】

そして、残りスロット算出回路60は、この残りのスロット数を表す情報を、更新スロットレジスタ31に上書きする。

【0097】

さらに、残りスロット算出回路60は、VCE3のデータ転送要求が許可される度に、更新スロットレジスタ31に格納された予約スロットの残りのスロット数から、1スロット減じて、VCE3の予約スロットの残りのスロット数を算出し、その結果を、更新スロットレジスタ31に上書きする。

以上のようにして、VCE3の予約スロットがカウントダウンされる。

【0098】

更新スロットレジスタ32には、初期値（リセット値）として、予約スロットレジスタ22に格納された、ACE4の予約スロットを表す情報が格納される。

【0099】

そして、残りスロット算出回路60は、ACE4のデータ転送要求が許可されると、更新スロットレジスタ32に格納されたACE4に割り付けられた予約スロットから、1スロット減じて、予約スロットの残りのスロット数を算出する。

【0100】

そして、残りスロット算出回路60は、この残りのスロット数を表す情報を、更新スロットレジスタ32に上書きする。

【0101】

さらに、残りスロット算出回路60は、ACE4のデータ転送要求が許可される度に、更新スロットレジスタ32に格納された予約スロットの残りのスロット数から、1スロット減じて、ACE4の予約スロットの残りのスロット数を算出し、その結果を、更新スロットレジスタ32に上書きする。

以上のようにして、ACE4の予約スロットがカウントダウンされる。

【0102】

更新スロットレジスタ30には、初期値（リセット値）として、残り予約スロットレジスタ20に格納された残り予約スロットを表す情報が格納される。

【0103】

そして、残りスロット算出回路60は、CPU2又はPCE5のデータ転送要求が許可されると、更新スロットレジスタ30に格納された残り予約スロットから、1スロット減じて、残り予約スロットの残りのスロット数を算出する。

【0104】

そして、残りスロット算出回路60は、この残りのスロット数を表す情報を、更新スロットレジスタ30に上書きする。

【0105】

さらに、残りスロット算出回路60は、CPU2又はPCE5のデータ転送要求が許可される度に、更新スロットレジスタ30に格納された残り予約スロット

の残りのスロット数から、1スロット減じて、残り予約スロットの残りのスロット数を算出し、その結果を、更新スロットレジスタ30に上書きする。

以上のようにして、残り予約スロットがカウントダウンされる。

【0106】

更新スロットレジスタ30, 31, 32は、バス帯域割付周期レジスタ10で指定されたバス帯域割付周期が経過すると、リセットされる。

【0107】

つまり、バス帯域割付周期レジスタ10で指定されたバス帯域割付周期が経過すると、残りスロット算出回路60は、更新スロットレジスタ31に、予約スロットレジスタ21に格納された予約スロットを表す情報を初期値（リセット値）として書き込み、更新スロットレジスタ32に、予約スロットレジスタ22に格納された予約スロットを表す情報を初期値（リセット値）として書き込み、更新スロットレジスタ30に、残り予約スロットレジスタ20に格納された残り予約スロットを表す情報を初期値（リセット値）として書き込む。

【0108】

そして、再び、予約スロットおよび残り予約スロットのカウントダウンが実行される。

【0109】

このように、リセットとカウントダウンとが繰り返し行われる。なお、カウントダウン値が、「0」でない場合でも、バス帯域割付周期が経過すると、リセットが行われる。

【0110】

更新スロット指定レジスタ40～43は、それぞれ、CPU2、VCE3、ACE4、及び、PCE5に対応して設けられている。

【0111】

そして、更新スロット指定レジスタ40～43には、それぞれ、CPU2に対する指定情報、VCE3に対する指定情報、ACE4に対する指定情報、及び、PCE5に対する指定情報、が格納される。

【0112】

ここで、指定情報とは、更新スロットレジスタ 31 を表す情報、更新スロットレジスタ 32 を表す情報、あるいは、更新スロットレジスタ 30 を表す情報、である。

【0113】

具体的には、更新スロット指定レジスタ 40 には、CPU 2 に対する指定情報として、更新スロットレジスタ 30 を表す情報が格納される。

【0114】

なぜなら、CPU 2 は、残り予約スロットレジスタ 20 に格納された残り予約スロットを消費するからである。

【0115】

更新スロット指定レジスタ 41 には、VCE 3 に対する指定情報として、更新スロットレジスタ 31 を表す情報が格納される。

【0116】

なぜなら、VCE 3 は、予約スロットレジスタ 21 に格納された予約スロットを消費するからである。

【0117】

更新スロット指定レジスタ 42 には、ACE 4 に対する指定情報として、更新スロットレジスタ 32 を表す情報が格納される。

【0118】

なぜなら、ACE 4 は、予約スロットレジスタ 22 に格納された予約スロットを消費するからである。

【0119】

更新スロット指定レジスタ 43 には、PCE 5 に対する指定情報として、更新スロットレジスタ 30 を表す情報が格納される。

【0120】

なぜなら、PCE 5 は、残り予約スロットレジスタ 20 に格納された残り予約スロットを消費するからである。

【0121】

更新スロット指定レジスタ 40 ～ 43 の指定情報は、外部から設定可能である

。例えば、CPU 2により、設定可能である。

【0122】

なお、バス調停装置 1 の初期設定が行われたときは、更新スロット指定レジスタ 40～43 の全てに、更新スロットレジスタ 30 を表す情報が格納される。その後、外部から、所望の更新スロット指定レジスタに、更新スロットレジスタ 31, 32 を表す情報が上書きされる。

【0123】

ここで、更新スロット指定レジスタ 40～43 は、更新スロット指定テーブルを構成する。

図 4 は、更新スロット指定テーブルの例示図である。図 4 の例では、CPU 2 に対応する更新スロット指定レジスタ 40 には、更新スロットレジスタ 30 を示す「0」が格納される。

【0124】

また、図 4 の例では、VCE 3 に対応する更新スロット指定レジスタ 41 には、更新スロットレジスタ 31 を示す「1」が格納される。

【0125】

また、図 4 の例では、ACE 4 に対応する更新スロット指定レジスタ 42 には、更新スロットレジスタ 32 を示す「2」が格納される。

【0126】

また、図 4 の例では、PCE 5 に対応する更新スロット指定レジスタ 43 には、更新スロットレジスタ 30 を示す「0」が格納される。

【0127】

なお、図 4 の例では、CPU 2 及び PCE 5 で、更新スロットレジスタ 30 を共用している。

【0128】

転送許可候補決定回路 70 は、データ転送制御線 7 から、CPU 2 からのデータ転送要求信号 CPU_r、VCE 3 からのデータ転送要求信号 VCE_r、ACE 4 からのデータ転送要求信号 ACE_r、及び、PCE 5 からのデータ転送要求信号 PCE_r、を受ける。

【 0 1 2 9 】

転送許可候補決定回路 7 0 は、C P U 2 からのデータ転送要求信号 C P U r を受けると、C P U 2 に対応する更新スロット指定レジスタ 4 0 を参照する。

【 0 1 3 0 】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロット指定レジスタ 4 0 に格納された情報が示す更新スロットレジスタ 3 0 を参照する。

【 0 1 3 1 】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロットレジスタ 3 0 に格納された、残り予約スロットの残りのスロット数（カウントダウン値）が、「0」でない場合は、C P U 2 がデータ転送を許可する候補（転送許可候補）であることを示す転送許可候補通知信号 C を、優先順位選択回路 5 4 に出力する。

【 0 1 3 2 】

転送許可候補決定回路 7 0 は、V C E 3 からのデータ転送要求信号 V C E r を受けると、V C E 3 に対応する更新スロット指定レジスタ 4 1 を参照する。

【 0 1 3 3 】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロット指定レジスタ 4 1 に格納された情報が示す更新スロットレジスタ 3 1 を参照する。

【 0 1 3 4 】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロットレジスタ 3 1 に格納された、予約スロットの残りのスロット数（カウントダウン値）が、「0」でない場合は、V C E 3 がデータ転送を許可する候補（転送許可候補）であることを示す転送許可候補通知信号 V を、優先順位選択回路 5-4 に出力する。

【 0 1 3 5 】

転送許可候補決定回路 7 0 は、A C E 4 からのデータ転送要求信号 A C E r を受けると、A C E 4 に対応する更新スロット指定レジスタ 4 2 を参照する。

【 0 1 3 6 】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロット指定レジスタ 4 2 に格納された情報が示す更新スロットレジスタ 3 2 を参照する。

【 0 1 3 7 】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロットレジスタ 3 2 に格納された、予約スロットの残りのスロット数（カウントダウン値）が、「0」でない場合は、A C E 4 がデータ転送を許可する候補（転送許可候補）であることを示す転送許可候補通知信号 A を、優先順位選択回路 5 4 に出力する。

【0 1 3 8】

転送許可候補決定回路 7 0 は、P C E 5 からのデータ転送要求信号 P C E r を受けると、P C E 5 に対応する更新スロット指定レジスタ 4 3 を参照する。

【0 1 3 9】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロット指定レジスタ 4 3 に格納された情報が示す更新スロットレジスタ 3 0 を参照する。

【0 1 4 0】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロットレジスタ 3 0 に格納された、残り予約スロットの残りのスロット数（カウントダウン値）が、「0」でない場合は、P C E 5 がデータ転送を許可する候補（転送許可候補）であることを示す転送許可候補通知信号 P を、優先順位選択回路 5 4 に出力する。

【0 1 4 1】

優先度レジスタ 5 0 ～ 5 3 は、それぞれ、C P U 2、V C E 3、A C E 4、及び、P C E 5 に対応して設けられている。

【0 1 4 2】

優先度レジスタ 5 0 には、C P U 2 の優先度を表す情報が格納される。優先度レジスタ 5 1 には、V C E 3 の優先度を表す情報が格納される。優先度レジスタ 5 2 には、A C E 4 の優先度を表す情報が格納される。優先度レジスタ 5 3 には、P C E 5 の優先度を表す情報が格納される。

【0 1 4 3】

優先度は、優先度レジスタ 5 0 ～ 5 3 に、外部から設定可能である。例えば、C P U 2 が、優先度レジスタ 5 0 ～ 5 3 に、優先度を設定することができる。

【0 1 4 4】

ここで、優先度レジスタ 5 0 ～ 5 3 は、優先度テーブルを構成する。

図 5 は、優先度テーブルの例示図である。

【0145】

図5の例では、優先度が、 $ACE4 > VCE3 > CPU2 > PCE5$ 、となるように、優先度テーブルが設定されている。つまり、図5の優先度テーブルにおいては、設定される数が小さいほど優先度が大きい。

【0146】

優先順位選択回路54は、転送許可候補決定回路70から入力される転送許可候補通知信号が複数の場合、即ち、転送許可候補となっているモジュールが複数の場合は、優先度レジスタ50～53を参照して、複数の転送許可候補のうち、最も優先度の高い転送許可候補に対して、データ転送制御線7を介して、転送許可信号を与える。

【0147】

なお、図2において、転送許可信号CPUaは、CPU2に対する転送許可信号を示し、転送許可信号VCEaは、VCE3に対する転送許可信号を示し、転送許可信号ACEaは、ACE4に対する転送許可信号を示し、転送許可信号PCEaは、PCE5に対する転送許可信号を示している。

【0148】

例えば、優先度テーブルが図5に示すものである場合において、優先順位選択回路54が、転送許可候補通知信号C及び転送許可候補通知信号Vを受けた場合は、優先度が高いVCE3に対して、転送許可信号VCEaを与える。

【0149】

さて、一方、優先順位選択回路54は、転送許可信号を与えた転送許可候補に対応する更新スロット指定レジスタを参照する。

【0150】

そして、優先順位選択回路54は、参照した更新スロット指定レジスタに格納されている情報を、残りスロット算出回路60に与える。

【0151】

そして、残りスロット算出回路60は、優先順位選択回路54から与えられた情報が表す、更新スロットレジスタ31、更新スロットレジスタ32、あるいは、更新スロットレジスタ30、が格納している残りのスロット数を、1スロット

減算する。

【0152】

残りスロット算出回路60は、このようにして算出した残りのスロット数を表す情報を、優先順位選択回路54から与えられた情報が表す、更新スロットレジスタ31、更新スロットレジスタ32、あるいは、更新スロットレジスタ30、に上書きする。

【0153】

こうして、転送許可が与えられる度に、転送許可が与えられた転送許可候補の予約スロットあるいは残り予約スロットが、カウントダウンされる。

【0154】

このことを、転送許可信号を与えた転送許可候補が、ACE4である場合を例に挙げて説明する。

【0155】

そうすると、優先順位選択回路54は、ACE4に対応する更新スロット指定レジスタ42を参照する。

【0156】

そして、優先順位選択回路54は、更新スロット指定レジスタ42に格納されている情報、即ち、更新スロットレジスタ32を示す情報を、残りスロット算出回路60に与える。

【0157】

そして、残りスロット算出回路60は、優先順位選択回路54から与えられた情報が表す更新スロットレジスタ32が格納しているACE4の予約スロットの残りのスロット数を、1スロット減算する。

【0158】

残りスロット算出回路60は、このようにして算出したACE4の残りのスロット数を表す情報を、優先順位選択回路54から与えられた情報が表す更新スロットレジスタ32に上書きする。

こうして、この例では、ACE4の予約スロットがカウントダウンされる。

【0159】

さて、残りスロット算出回路60は、カウントダウンの結果（減算の結果）、予約スロットの残りのスロット数が「0」になった場合、あるいは、残り予約スロットの残りのスロット数が「0」になった場合は、割り込み信号線9を介して、CPU2に対して、残りのスロット数が「0」になった予約スロットあるいは残り予約スロットを使用するモジュールが予約スロットあるいは残り予約スロットを使い果たしたことを通知する。

【0160】

なお、この場合、残りスロット算出回路60は、残りのスロット数が「0」になった予約スロットあるいは残り予約スロットを使用するモジュールに対して、予約スロットあるいは残り予約スロットを使い果たしたことを通知することもできる。

【0161】

さて、次に、図2及びタイムチャートを用いて、図1のバス調停装置1の動作を詳細に説明する。

【0162】

この場合、図2の残り予約スロットレジスタ20及び予約スロットレジスタ21, 22からなる予約スロットテーブルが、図3に示すように設定され、図2の更新スロット指定レジスタ40～43からなる更新スロット指定テーブルが、図4に示すように設定され、図2の優先度レジスタ50～53からなる優先度テーブルが、図5に示すように設定されているとする。

【0163】

図6は、バス調停装置1の動作を説明するためのタイムチャートである。

図6に示すように、バス帯域割付周期は、10スロットとなっており、10スロット毎に、更新スロットレジスタ30, 31, 32がリセットされる。

【0164】

図6に示すように、リセット時には、ACE4の残りのスロット数（更新スロットレジスタ32に格納されているスロット数）は、初期値（リセット値）の「2」である。

【0165】

また、リセット時には、VCE3の残りのスロット数（更新スロットレジスタ31に格納されているスロット数）は、初期値（リセット値）の「3」である。

【0166】

また、リセット時には、CPU2及びPCE5の残りのスロット数（更新スロットレジスタ30に格納されているスロット数）は、初期値（リセット値）の「5」である。

【0167】

さて、図6に示すように、バス帯域割付周期の1スロット目では、VCE3だけが、データ転送要求信号VCEr（「H（ハイ）」レベルの信号）を、転送許可候補決定回路70に与えている。

【0168】

従って、転送許可候補決定回路70は、転送許可候補がVCE3であることを示す転送許可候補通知信号Vを、優先順位選択回路54に与える。

【0169】

すると、優先順位選択回路54は、VCE3に対して、転送許可信号VCEaを与える。

【0170】

従って、残りスロット算出回路60は、VCE3の予約スロット「3」（更新スロットレジスタ31に格納されている予約スロット「3」）から「1」を減じて、残りのスロット数を「2」として、その情報を更新スロットレジスタ31に上書きする。

【0171】

次に、バス帯域割付周期の2スロット目では、PCE5だけが、データ転送要求信号PCEr（「H（ハイ）」レベルの信号）を、転送許可候補決定回路70に与えている。

【0172】

従って、転送許可候補決定回路70は、転送許可候補がPCE5であることを示す転送許可候補通知信号Pを、優先順位選択回路54に与える。

【0173】

すると、優先順位選択回路 5 4 は、P C E 5 に対して、転送許可信号 P C E a を与える。

【 0 1 7 4 】

従って、残りスロット算出回路 6 0 は、残り予約スロット「5」（更新スロットレジスタ 3 0 に格納されている残り予約スロット「5」）から「1」を減じて、残りのスロット数を「4」として、その情報を更新スロットレジスタ 3 0 に書き込む。

【 0 1 7 5 】

次に、バス帯域割付周期の 3 スロット目では、A C E 4、C P U 2、及び、P C E 5 が、それぞれ、データ転送要求信号 A C E r（「H（ハイ）」レベルの信号）、データ転送要求信号 C P U r（「H（ハイ）」レベルの信号）、及び、データ転送要求信号 P C E r（「H（ハイ）」レベルの信号）、を転送許可候補決定回路 7 0 に与えている。

【 0 1 7 6 】

従って、転送許可候補決定回路 7 0 は、転送許可候補が A C E 4、C P U 2 および P C E 5 であることを示す転送許可候補通知信号 A、C、P を、優先順位選択回路 5 4 に与える。

【 0 1 7 7 】

すると、優先順位選択回路 5 4 は、優先度レジスタ 5 2、5 0、5 3 を参照して、A C E 4、C P U 2 および P C E 5 のうち、最も優先度が高い A C E 4 に対して、転送許可信号 A C E a を与える。

【 0 1 7 8 】

従って、残りスロット算出回路 6 0 は、A C E 4 の予約スロット「2」（更新スロットレジスタ 3 2 に格納されている予約スロット「2」）から「1」を減じて、残りのスロット数を「1」として、その情報を更新スロットレジスタ 3 2 に上書きする。

【 0 1 7 9 】

次に、バス帯域割付周期の 4 スロット目では、C P U 2、及び、P C E 5 が、それぞれ、データ転送要求信号 C P U r、及び、データ転送要求信号 P C E r、

を転送許可候補決定回路 7 0 に与えている。

【0 1 8 0】

従って、転送許可候補決定回路 7 0 は、転送許可候補が C P U 2 および P C E 5であることを示す転送許可候補通知信号 C, P を、優先順位選択回路 5 4 に与える。

【0 1 8 1】

すると、優先順位選択回路 5 4 は、優先度レジスタ 5 0, 5 3 を参照して、C P U 2 および P C E 5 のうち、最も優先度が高い C P U 2 に対して、転送許可信号 C P U a を与える。

【0 1 8 2】

従って、残りスロット算出回路 6 0 は、残り予約スロットの残りのスロット数「4」（更新スロットレジスタ 3 0 に格納されている残り予約スロットの残りのスロット数「4」）から「1」を減じて、残りのスロット数を「3」として、その情報を更新スロットレジスタ 3 0 に上書きする。

【0 1 8 3】

なお、図 4 の更新スロット指定テーブルから分かるように、C P U 2 及び P C E 5 は、残り予約スロットレジスタ 2 0 に格納された残り予約スロットを共用している。

【0 1 8 4】

以上のようにして、バス帯域割付周期の 1 0 スロット目まで、カウントダウンが実行され、1 0 スロット目を経過した時点で、更新スロットレジスタ 3 0 ～ 3 2 がリセットされる。

【0 1 8 5】

ここで、図 6 の 7 スロット目の動作を説明しておく。

バス帯域割付周期の 7 スロット目では、A C E 4 及び V C E 3 が、それぞれ、データ転送要求信号 A C E r 及びデータ転送要求信号 V C E r を、転送許可候補決定回路 7 0 に与えている。

【0 1 8 6】

従って、転送許可候補決定回路 7 0 は、転送許可候補が A C E 4 であることを

示す転送許可候補通知信号 A と、転送許可候補が V C E 3 であることを示す転送許可候補通知信号 V と、を優先順位選択回路 5 4 に与える。

【0187】

すると、優先順位選択回路 5 4 は、優先度レジスタ 5 1, 5 2 を参照して、A C E 4 および V C E 3 のうち、最も優先度が高い A C E 4 に対して、転送許可信号 A C E a を与える。

【0188】

従って、残りスロット算出回路 6 0 は、A C E 4 の予約スロットの残りのスロット数「1」（更新スロットレジスタ 3 2 に格納されている予約スロットの残りのスロット数「1」）から「1」を減じて、残りのスロット数を「0」として、その情報を更新スロットレジスタ 3 2 に上書きする。

【0189】

そして、残りスロット算出回路 6 0 は、割り込み信号線 9 を介して、C P U 2 に対して、A C E 4 が予約スロットを使い果たしたことを通知する。

【0190】

さて、次に、図 1 のバス調停装置 1 の処理の流れを、図 2 及びフローチャートを用いて説明する。

図 7 は、バス調停装置 1 のフローチャートである。

【0191】

図 7 に示すように、ステップ S 1 にて、C P U 2 がバス調停装置 1 の初期設定を行う。

【0192】

具体的には、C P U 2 が、バス帯域割付周期レジスタ 1 0 に、バス帯域割付周期を設定する。

【0193】

また、C P U 2 が、予約スロットレジスタ 2 1 及び予約スロットレジスタ 2 2 に、それぞれ、V C E 3 の予約スロット及び A C E 4 の予約スロットを設定する。

【0194】

さらに、CPU 2 が、優先度レジスタ 50、優先度レジスタ 51、優先度レジスタ 52、及び、優先度レジスタ 53 に、それぞれ、CPU 2、VCE 3、ACE 4、及び、PCE 5 の優先度を設定する。

【0195】

さらに、CPU 2 が、更新スロット指定レジスタ 40、更新スロット指定レジスタ 41、更新スロット指定レジスタ 42、及び、更新スロット指定レジスタ 43 に、それぞれ、CPU 2、VCE 3、ACE 4、及び、PCE 5 に対する指定情報を設定する。

【0196】

次に、ステップ S2 にて、残りスロット算出回路 60 が、バス帯域割付周期レジスタ 10 及び予約スロットレジスタ 21、22 を参照して、残り予約スロットを算出し、残り予約スロットレジスタ 20 に格納する。

【0197】

次に、ステップ S3 にて、バス調停装置 1 は、データ転送要求の受け付けを開始する。これにより、バス帯域割付周期で、バス調停装置 1 の時間が経過することになる。

【0198】

次に、ステップ S7 にて、転送許可候補決定回路 70 は、データ転送要求信号を出力したモジュールに対応する更新スロット指定レジスタに格納されている指定情報が表す更新スロットレジスタを参照する。

【0199】

なお、CPU 2、VCE 3、ACE 4、および PCE 5 の各々を、モジュールと呼んでいる。

【0200】

そして、ステップ S8 にて、転送許可候補決定回路 70 は、参照した更新スロットレジスタに格納されている残りのスロット数が「1」以上であれば、優先順位選択回路 54 に、転送許可候補通知信号を出力する。

【0201】

ここで、ステップ S7 及びステップ S8 の処理は、データ転送要求信号を出力

したモジュールが複数の場合は、モジュール毎に実行される。

【0202】

次に、ステップS9にて、優先順位選択回路54は、複数の転送許可候補通知信号が入力された場合は、各転送許可候補通知信号が示す各モジュールに対応する各優先度レジスタを参照する。

【0203】

そして、ステップS10にて、優先順位選択回路54は、参照した複数の優先度レジスタが格納する複数の優先度のうちで、最も高い優先度のモジュールに対して、転送許可信号を出力する。

【0204】

また、優先順位選択回路54は、転送許可信号を与えたモジュールに対応する更新スロット指定レジスタを参照して、参照した更新スロット指定レジスタに格納されている指定情報（更新スロットレジスタの情報）を、残りスロット算出回路60に与える。

【0205】

すると、ステップS11にて、残りスロット算出回路60は、与えられた指定情報が表す更新スロットレジスタに格納されているスロット数を「1」減算する。

【0206】

そして、減算後のスロット数が「0」でなく（ステップS12）、かつ、1スロット経過し（ステップS4）、かつ、バス帯域割付周期が経過していないならば（ステップS5）、処理は、ステップS7へ進む。

【0207】

また、減算後のスロット数が「0」でなく（ステップS12）、かつ、1スロット経過し（ステップS4）、かつ、バス帯域割付周期が経過したならば（ステップS5）、残りスロット算出回路60は、ステップS6にて、更新スロットレジスタ30～32をリセットする。そして、処理は、ステップS7へ進む。

【0208】

また、減算後のスロット数が「0」の場合は（ステップS12）、残りスロ

ト算出回路60は、ステップS13にて、割り込み信号線9を介して、CPU2に対して、転送許可信号が与えられたモジュールが予約スロットを使い果たしたことを通知する。そして、処理は、ステップS4へ進む。

以上のようなステップS4～ステップS13の処理が繰り返し実行される。

【0209】

さて、以上のように、本実施の形態によれば、残り予約スロットレジスタ20が記憶する残り予約スロットを外部からモニタすることで、バスの帯域幅不足により、これから実行しようとするモジュールによる処理が破綻するか否かを予め判定できる。

【0210】

また、バス帯域割付周期レジスタ10の設定を外部から変更することで、バス帯域割付周期を変更できる。さらに、予約スロットレジスタ21、22の設定を外部から変更することで、予約スロットを変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【0211】

さらに、モジュールが、当該モジュールに割り当てられた予約スロットを全て消費した場合、CPU2に対して、予約スロットを全て消費した旨が通知される。これにより、無駄なデータ転送要求がなされることを防止できる。

【0212】

さて、次に、本実施の形態による効果を具体例を挙げて説明する。この場合、優先度テーブルは、図5に示したものとし、更新スロット指定テーブルは、図4に示したものとする。

【0213】

図2のバス帯域割付周期レジスタ10に、バス帯域割付周期として、スロット数「340」を設定する。

【0214】

予約スロットレジスタ21に、VCE3の予約スロットとして、スロット数「70」を設定する。

【0215】

予約スロットレジスタ 22 に、ACE 4 の予約スロットとして、スロット数「70」を設定する。

【0216】

従って、残り予約スロットレジスタ 20 に、残り予約スロット（CPU 2 及び PCE 5 が使用）として、スロット数「200」が設定される。

【0217】

ここで、VCE 3 の予約スロット、即ち、予約スロットレジスタ 21 に設定したスロット数が、QCIF（176 画素×144 画素）サイズの画像に対して、MPEG-4 による圧縮伸張処理ができるバス帯域幅であるとする。

【0218】

従って、CIF サイズの画像の圧縮伸張処理に要するスロット数として「280」が必要となる。

【0219】

このような場合に、本実施の形態では、MPEG-4 による圧縮伸張処理の画像サイズを、QCIF から CIF まで拡張しても、CIF サイズの画像の圧縮伸張処理に要するバス帯域幅を確保できないことが予め計算できる。

【0220】

なぜなら、残り予約スロットレジスタ 20 の残り予約スロット「200」と VCE 3 のために確保している予約スロット「70」と、を合わせても、CIF サイズの画像の圧縮伸張処理に要するスロット数「280」に足りないからである。

【0221】

従って、処理する画像サイズを CIF に拡張する要求が発生した場合は、事前にその要求をキャンセルすることが可能となる。

【0222】

本実施の形態による他の効果を具体例を挙げて説明する。

CPU 2 で動作する MPEG-4 のレート制御プログラムは、ビットレート変更を制御する場合にも、残り予約スロットレジスタ 20 を参照することで、事前にレート変更後に必要なバス帯域幅を保証できるか判定できる。

【 0 2 2 3 】

本実施の形態によるさらに他の効果を具体例を挙げて説明する。

M P E G - 4 と A M R とでは、圧縮伸張処理に要求される時間（周期）が異なる。

【 0 2 2 4 】

そのため、V C E 3 を用いて M P E G - 4 の圧縮伸張を行う場合と、A C E 4 を用いて A M R の圧縮伸張を行う場合とで、それぞれの処理に合った予約スロット（バス帯域幅）を設定することが可能となる。

【 0 2 2 5 】

なお、図 1 において、モジュールの種類はこれらに限定されるものではない。また、モジュールの数もこれらに限定されるものではない。

【 0 2 2 6 】

図 2 において、予約スロットレジスタ 2 1 , 2 2 の数は、2 つに限定されるものではない。1 つでもよいし、3 以上でもよい。

【 0 2 2 7 】

また、更新スロットレジスタ 3 1 , 3 2 も、2 つに限定されるものではない。予約スロットレジスタの数に対応した数の更新スロットレジスタが設けられる。

【 0 2 2 8 】

また、更新スロット指定レジスタ 4 0 ~ 4 3 は、4 つに限定されるものではない。モジュールの数に対応した数の更新スロット指定レジスタが設けられる。

【 0 2 2 9 】

また、更新スロット指定レジスタに設定する指定情報は、上述したものに限定されるものではなく、任意に設定できる。

【 0 2 3 0 】

また、優先度レジスタ 5 0 ~ 5 3 は、4 つに限定されるものではない。モジュールの数に対応した数の優先度レジスタが設けられる。

【 0 2 3 1 】

また、優先度レジスタに設定する優先度は、上述したものに限定されるものではなく、任意に設定できる。

【 0 2 3 2 】

(実施の形態 2)

実施の形態 1 では、複数のモジュールからの複数のデータ転送要求を調停したが、実施の形態 2 では、複数のタスクを管理するタスクマネージャからの複数のデータ転送要求を調停する。

【 0 2 3 3 】

図 8 は、本発明の実施の形態 2 におけるデータ処理装置のブロック図である。なお、図 8 において、図 1 と同様の部分については、同一の符号を付している。

【 0 2 3 4 】

図 8 に示すように、このデータ処理装置は、バス調停装置 1、タスクマネージャ 1 0 0、および、メモリ 6、を具備する。

【 0 2 3 5 】

バス調停装置 1、タスクマネージャ 1 0 0、および、メモリ 6 は、バス 8 を介して結合される。

【 0 2 3 6 】

また、バス調停装置 1、タスクマネージャ 1 0 0、および、メモリ 6 は、データ転送制御線 7 を介して結合される。

【 0 2 3 7 】

バス調停装置 1 とタスクマネージャ 1 0 0 とは、バス調停装置 1 からの割り込み信号線 9 によって接続される。

【 0 2 3 8 】

さて、タスクマネージャ 1 0 0 は、単数又は複数のタスクを管理する。

このタスクマネージャ 1 0 0 は、CPU 上で動作するソフトウェアであってもよいし、また、CPU 上のタスクを制御可能なハードウェアであってもよいし、また、その双方を組み合わせたタスク制御機構であってもよい。

【 0 2 3 9 】

バス調停装置 1 は、タスクマネージャ 1 0 0 からのデータ転送要求を受けて、各タスクに対して、スロット単位でデータ転送要求を割り付ける装置である。

【 0 2 4 0 】

また、バス調停装置 1 は、各タスクに対してバス帯域幅を予約できる機構、および、予約できる残りバス帯域幅をモニタできる機構、を有する。

【0 2 4 1】

ここで、バス調停装置 1 は、所定のバスサイクル数（所定のバスクロック数）を 1 スロットとしている。

【0 2 4 2】

メモリ 6 は、データを格納する。タスクマネージャ 1 0 0 が管理するタスクを実行することで、メモリ 6 に格納されたデータに対して処理が施され、その結果がメモリ 6 に格納される。

【0 2 4 3】

以上の構成を具備する図 8 に示したデータ処理装置によって、複数のタスクを実行する。この際、バス調停装置 1 は、リアルタイム処理が要求されるタスクに対して、リアルタイム処理に必要なバス帯域幅を割り当てる。

【0 2 4 4】

さて、図 8 のバス調停装置 1 の構成は、図 1 のバス調停装置 1 の構成と同様である。従って、図 2 を用いて、図 8 のバス調停装置 1 の詳細を説明する。

【0 2 4 5】

なお、以下の説明では、タスクマネージャ 1 0 0 が管理しているタスクが、タスク 1 ～タスク 4 の 4 つである例を挙げる。

【0 2 4 6】

そして、タスク 2 及びタスク 3 がリアルタイム処理が必要なタスクであるとする。

【0 2 4 7】

バス帯域割付周期レジスタ 1 0 は、所定のスロット数で規定されるバス帯域割付周期を表す情報を保存するレジスタである。

【0 2 4 8】

バス帯域割付周期は、バス帯域割付周期レジスタ 1 0 に、外部から設定可能である。例えば、タスクマネージャ 1 0 0 が、バス帯域割付周期レジスタ 1 0 に、バス帯域割付周期を設定することができる。

【0 2 4 9】

リアルタイム処理を行うタスク 2 及びタスク 3 の各々には、予め、所定のバス帯域幅が割り付けられる。この場合、予め割り付けるバス帯域幅は、スロット数で規定されるため、予め割り付けるバス帯域幅を予約スロットと呼ぶ。

【0 2 5 0】

予約スロットレジスタ 2 1 は、タスク 2 に割り付ける予約スロットを表す情報を格納する。

【0 2 5 1】

タスク 2 の予約スロットは、予約スロットレジスタ 2 1 に、外部から設定可能である。例えば、タスクマネージャ 1 0 0 が、予約スロットレジスタ 2 1 に、タスク 2 の予約スロットを設定することができる。

【0 2 5 2】

予約スロットレジスタ 2 2 は、タスク 3 に割り付ける予約スロットを表す情報を格納する。

【0 2 5 3】

タスク 3 の予約スロットは、予約スロットレジスタ 2 2 に、外部から設定可能である。例えば、タスクマネージャ 1 0 0 が、予約スロットレジスタ 2 2 に、タスク 3 の予約スロットを設定することができる。

【0 2 5 4】

残り予約スロットレジスタ 2 0 は、バス帯域割付周期から、予約スロットレジスタ 2 1 に格納された予約スロットと、予約スロットレジスタ 2 2 に格納された予約スロットと、を差し引いた値（以下、「残り予約スロット」と呼ぶ。）を表す情報を格納する。

【0 2 5 5】

この残り予約スロットを、タスク 1 とタスク 4 とで使用する。

【0 2 5 6】

ここで、予約スロットレジスタ 2 1, 2 2 及び残り予約スロットレジスタ 2 0 は、予約スロットテーブルを構成する。

この予約スロットテーブルは、例えば、図 3 に示したようなものが挙げられる

。

【 0 2 5 7 】

残りスロット算出回路 6 0 は、バス帯域割付周期から、予約スロットレジスタ 2 1 に格納された予約スロットと、予約スロットレジスタ 2 2 に格納された予約スロットと、を差し引いて、残り予約スロットを算出する。

【 0 2 5 8 】

残り予約スロットレジスタ 2 0 に格納される残り予約スロットは、残りスロット算出回路 6 0 により算出されたものである。

【 0 2 5 9 】

更新スロットレジスタ 3 1 には、初期値（リセット値）として、予約スロットレジスタ 2 1 に格納された、タスク 2 の予約スロットを表す情報が格納される。

【 0 2 6 0 】

そして、残りスロット算出回路 6 0 は、タスク 2 のデータ転送要求が許可されると、更新スロットレジスタ 3 1 に格納されたタスク 2 に割り付けられた予約スロットから、1 スロット減じて、予約スロットの残りのスロット数を算出する。

【 0 2 6 1 】

そして、残りスロット算出回路 6 0 は、この残りのスロット数を表す情報を、更新スロットレジスタ 3 1 に上書きする。

【 0 2 6 2 】

さらに、残りスロット算出回路 6 0 は、タスク 2 のデータ転送要求が許可される度に、更新スロットレジスタ 3 1 に格納された予約スロットの残りのスロット数から、1 スロット減じて、タスク 2 の予約スロットの残りのスロット数を算出し、その結果を、更新スロットレジスタ 3 1 に上書きする。

以上のようにして、タスク 2 の予約スロットがカウントダウンされる。

【 0 2 6 3 】

更新スロットレジスタ 3 2 には、初期値（リセット値）として、予約スロットレジスタ 2 2 に格納された、タスク 3 の予約スロットを表す情報が格納される。

【 0 2 6 4 】

そして、残りスロット算出回路 6 0 は、タスク 3 のデータ転送要求が許可され

ると、更新スロットレジスタ 3 2 に格納されたタスク 3 に割り付けられた予約スロットから、1 スロット減じて、予約スロットの残りのスロット数を算出する。

【0 2 6 5】

そして、残りスロット算出回路 6 0 は、この残りのスロット数を表す情報を、更新スロットレジスタ 3 2 に上書きする。

【0 2 6 6】

さらに、残りスロット算出回路 6 0 は、タスク 3 のデータ転送要求が許可される度に、更新スロットレジスタ 3 2 に格納された予約スロットの残りのスロット数から、1 スロット減じて、タスク 3 の予約スロットの残りのスロット数を算出し、その結果を、更新スロットレジスタ 3 2 に上書きする。

以上のようにして、タスク 3 の予約スロットがカウントダウンされる。

【0 2 6 7】

更新スロットレジスタ 3 0 には、初期値（リセット値）として、残り予約スロットレジスタ 2 0 に格納された残り予約スロットを表す情報が格納される。

【0 2 6 8】

そして、残りスロット算出回路 6 0 は、タスク 1 又はタスク 4 のデータ転送要求が許可されると、更新スロットレジスタ 3 0 に格納された残り予約スロットから、1 スロット減じて、残り予約スロットの残りのスロット数を算出する。

【0 2 6 9】

そして、残りスロット算出回路 6 0 は、この残りのスロット数を表す情報を、更新スロットレジスタ 3 0 に上書きする。

【0 2 7 0】

さらに、残りスロット算出回路 6 0 は、タスク 1 又はタスク 4 のデータ転送要求が許可される度に、更新スロットレジスタ 3 0 に格納された残り予約スロットの残りのスロット数から、1 スロット減じて、残り予約スロットの残りのスロット数を算出し、その結果を、更新スロットレジスタ 3 0 に上書きする。

以上のようにして、残り予約スロットがカウントダウンされる。

【0 2 7 1】

更新スロットレジスタ 3 0, 3 1, 3 2 は、バス帯域割付周期レジスタ 1 0 で

指定されたバス帯域割付周期が経過すると、リセットされる。

【0 2 7 2】

つまり、バス帯域割付周期レジスタ 1 0 で指定されたバス帯域割付周期が経過すると、残りスロット算出回路 6 0 は、更新スロットレジスタ 3 1 に、予約スロットレジスタ 2 1 に格納された予約スロットを表す情報を初期値（リセット値）として書き込み、更新スロットレジスタ 3 2 に、予約スロットレジスタ 2 2 に格納された予約スロットを表す情報を初期値（リセット値）として書き込み、更新スロットレジスタ 3 0 に、残り予約スロットレジスタ 2 0 に格納された残り予約スロットを表す情報を初期値（リセット値）として書き込む。

【0 2 7 3】

そして、再び、予約スロットおよび残り予約スロットのカウントダウンが実行される。

【0 2 7 4】

このように、リセットとカウントダウンとが繰り返し行われる。なお、カウントダウン値が、「0」でない場合でも、バス帯域割付周期が経過すると、リセットが行われる。

【0 2 7 5】

更新スロット指定レジスタ 4 0 ～ 4 3 には、それぞれ、タスク 1 に対する指定情報、タスク 2 に対する指定情報、タスク 3 に対する指定情報、及び、タスク 4 に対する指定情報、が格納される。

【0 2 7 6】

ここで、指定情報とは、更新スロットレジスタ 3 1 を表す情報、更新スロットレジスタ 3 2 を表す情報、あるいは、更新スロットレジスタ 3 0 を表す情報、である。

【0 2 7 7】

具体的には、更新スロット指定レジスタ 4 0 には、タスク 1 に対する指定情報として、更新スロットレジスタ 3 0 を表す情報が格納される。

【0 2 7 8】

なぜなら、タスク 1 は、残り予約スロットレジスタ 2 0 格納された残り予約ス

ロットを消費するからである。

【0 2 7 9】

更新スロット指定レジスタ 4 1 には、タスク 2 に対する指定情報として、更新スロットレジスタ 3 1 を表す情報が格納される。

【0 2 8 0】

なぜなら、タスク 2 は、予約スロットレジスタ 2 1 に格納された予約スロットを消費するからである。

【0 2 8 1】

更新スロット指定レジスタ 4 2 には、タスク 3 に対する指定情報として、更新スロットレジスタ 3 2 を表す情報が格納される。

【0 2 8 2】

なぜなら、タスク 3 は、予約スロットレジスタ 2 2 に格納された予約スロットを消費するからである。

【0 2 8 3】

更新スロット指定レジスタ 4 3 には、タスク 4 に対する指定情報として、更新スロットレジスタ 3 0 を表す情報が格納される。

【0 2 8 4】

なぜなら、タスク 4 は、残り予約スロットレジスタ 2 0 に格納された残り予約スロットを消費するからである。

【0 2 8 5】

更新スロット指定レジスタ 4 0 ～ 4 3 の指定情報は、外部から設定可能である。例えば、タスクマネージャ 1 0 0 により、設定可能である。

【0 2 8 6】

なお、バス調停装置 1 の初期設定が行われたときは、更新スロット指定レジスタ 4 0 ～ 4 3 の全てに、更新スロットレジスタ 3 0 を表す情報が格納される。その後、外部から、所望の更新スロット指定レジスタに、更新スロットレジスタ 3 1, 3 2 を表す情報が上書きされる。

【0 2 8 7】

ここで、更新スロット指定レジスタ 4 0 ～ 4 3 は、更新スロット指定テーブル

を構成する。

この更新スロット指定テーブルは、例えば、図4において、更新スロット指定レジスタ40をタスク1用とし、更新スロット指定レジスタ41をタスク2用とし、更新スロット指定レジスタ42をタスク3用とし、更新スロット指定レジスタ43をタスク4用としたものが挙げられる。

【0288】

なお、図4の例では、タスク1及びタスク4で、更新スロットレジスタ30を共用している。

【0289】

転送許可候補決定回路70は、データ転送制御線7から、タスクマネージャ100からのタスク1のデータ転送要求信号CPU_r、タスクマネージャ100からのタスク2のデータ転送要求信号VCE_r、タスクマネージャ100からのタスク3のデータ転送要求信号ACE_r、及び、タスクマネージャ100からのタスク4のデータ転送要求信号PCE_r、を受ける。

【0290】

転送許可候補決定回路70は、タスク1のデータ転送要求信号CPU_rを受けると、タスク1に対応する更新スロット指定レジスタ40を参照する。

【0291】

そして、転送許可候補決定回路70は、更新スロット指定レジスタ40に格納された情報が示す更新スロットレジスタ30を参照する。

【0292】

そして、転送許可候補決定回路70は、更新スロットレジスタ30に格納された、残り予約スロットの残りのスロット数（カウントダウン値）が、「0」でない場合は、タスク1がデータ転送を許可する候補（転送許可候補）であることを示す転送許可候補通知信号Cを、優先順位選択回路54に出力する。

【0293】

転送許可候補決定回路70は、タスク2からのデータ転送要求信号VCE_rを受けると、タスク2に対応する更新スロット指定レジスタ41を参照する。

【0294】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロット指定レジスタ 4 1 に格納された情報が示す更新スロットレジスタ 3 1 を参照する。

【0 2 9 5】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロットレジスタ 3 1 に格納された、予約スロットの残りのスロット数（カウントダウン値）が、「0」でない場合は、タスク 2 がデータ転送を許可する候補（転送許可候補）であることを示す転送許可候補通知信号 V を、優先順位選択回路 5 4 に出力する。

【0 2 9 6】

転送許可候補決定回路 7 0 は、タスク 3 からのデータ転送要求信号 A C E r を受けると、タスク 3 に対応する更新スロット指定レジスタ 4 2 を参照する。

【0 2 9 7】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロット指定レジスタ 4 2 に格納された情報が示す更新スロットレジスタ 3 2 を参照する。

【0 2 9 8】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロットレジスタ 3 2 に格納された、予約スロットの残りのスロット数（カウントダウン値）が、「0」でない場合は、タスク 3 がデータ転送を許可する候補（転送許可候補）であることを示す転送許可候補通知信号 A を、優先順位選択回路 5 4 に出力する。

【0 2 9 9】

転送許可候補決定回路 7 0 は、タスク 4 からのデータ転送要求信号 P C E r を受けると、P C E 5 に対応する更新スロット指定レジスタ 4 3 を参照する。

【0 3 0 0】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロット指定レジスタ 4 3 に格納された情報が示す更新スロットレジスタ 3 0 を参照する。

【0 3 0 1】

そして、転送許可候補決定回路 7 0 は、更新スロットレジスタ 3 0 に格納された、残り予約スロットの残りのスロット数（カウントダウン値）が、「0」でない場合は、タスク 4 がデータ転送を許可する候補（転送許可候補）であることを示す転送許可候補通知信号 P を、優先順位選択回路 5 4 に出力する。

【0302】

優先度レジスタ50には、タスク1の優先度を表す情報が格納される。優先度レジスタ51には、タスク2の優先度を表す情報が格納される。優先度レジスタ52には、タスク3の優先度を表す情報が格納される。優先度レジスタ53には、タスク4の優先度を表す情報が格納される。

【0303】

優先度は、優先度レジスタ50～53に、外部から設定可能である。例えば、タスクマネージャ100が、優先度レジスタ50～53に、優先度を設定することができる。

【0304】

ここで、優先度レジスタ50～53は、優先度テーブルを構成する。

この優先度テーブルは、例えば、図5において、優先度レジスタ50をタスク1用とし、優先度レジスタ51をタスク2用とし、優先度レジスタ52をタスク3用とし、優先度レジスタ53をタスク4用としたものが挙げられる。

【0305】

優先順位選択回路54は、転送許可候補決定回路70から入力される転送許可候補通知信号が複数の場合、即ち、転送許可候補となっているタスクが複数の場合は、優先度レジスタ50～53を参照して、複数の転送許可候補のうち、最も優先度の高い転送許可候補に対して、転送許可を与える。

【0306】

具体的には、優先順位選択回路54は、タスクマネージャ100に対して、データ転送制御線7を介して、転送許可を与える転送許可候補を示す転送許可信号を出力する。

【0307】

なお、図2において、転送許可信号CPUaは、タスク1に対する転送許可信号を示し、転送許可信号VCEaは、タスク2に対する転送許可信号を示し、転送許可信号ACEaは、タスク3に対する転送許可信号を示し、転送許可信号PCEaは、タスク4に対する転送許可信号を示している。

【0308】

例えば、優先度テーブルが図 5 に示すものである場合において、優先順位選択回路 5 4 が、タスク 1 の転送許可候補通知信号 C 及びタスク 2 の転送許可候補通知信号 V を受けた場合は、優先順位選択回路 5 4 は、優先度が高いタスク 2 に転送許可を与えることを示す転送許可信号 V C E a を、タスクマネージャ 1 0 0 に出力する。

【0 3 0 9】

さて、一方、優先順位選択回路 5 4 は、転送許可を与えた転送許可候補に対応する更新スロット指定レジスタを参照する。

【0 3 1 0】

そして、優先順位選択回路 5 4 は、参照した更新スロット指定レジスタに格納されている情報を、残りスロット算出回路 6 0 に与える。

【0 3 1 1】

そして、残りスロット算出回路 6 0 は、優先順位選択回路 5 4 から与えられた情報が表す、更新スロットレジスタ 3 1、更新スロットレジスタ 3 2、あるいは、更新スロットレジスタ 3 0、が格納している残りのスロット数を、1 スロット減算する。

【0 3 1 2】

残りスロット算出回路 6 0 は、このようにして算出した残りのスロット数を表す情報を、優先順位選択回路 5 4 から与えられた情報が表す、更新スロットレジスタ 3 1、更新スロットレジスタ 3 2、あるいは、更新スロットレジスタ 3 0、に上書きする。

【0 3 1 3】

こうして、転送許可が与えられる度に、転送許可が与えられた転送許可候補の予約スロットあるいは残り予約スロットが、カウントダウンされる。

【0 3 1 4】

このことを、転送許可を与えた転送許可候補が、タスク 3 である場合を例に挙げて説明する。

【0 3 1 5】

そうすると、優先順位選択回路 5 4 は、タスク 3 に対応する更新スロット指定

レジスタ 4 2 を参照する。

【0 3 1 6】

そして、優先順位選択回路 5 4 は、更新スロット指定レジスタ 4 2 に格納されている情報、即ち、更新スロットレジスタ 3 2 を示す情報を、残りスロット算出回路 6 0 に与える。

【0 3 1 7】

そして、残りスロット算出回路 6 0 は、優先順位選択回路 5 4 から与えられた情報が表す更新スロットレジスタ 3 2 が格納しているタスク 3 の予約スロットの残りのスロット数を、1 スロット減算する。

【0 3 1 8】

残りスロット算出回路 6 0 は、このようにして算出したタスク 3 の残りのスロット数を表す情報を、優先順位選択回路 5 4 から与えられた情報が表す更新スロットレジスタ 3 2 に上書きする。

こうして、この例では、タスク 3 の予約スロットがカウントダウンされる。

【0 3 1 9】

さて、残りスロット算出回路 6 0 は、カウントダウンの結果（減算の結果）、予約スロットの残りのスロット数が「0」になった場合、あるいは、残り予約スロットの残りのスロット数が「0」になった場合は、割り込み信号線 9 を介して、タスクマネージャ 1 0 0 に対して、残りのスロット数が「0」になった予約スロットあるいは残り予約スロットを使用するタスクが予約スロットあるいは残り予約スロットを使い果たしたことを通知する。

【0 3 2 0】

この通知を受けて、タスクマネージャ 1 0 0 は、更新スロットレジスタ 3 0 ～ 3 2 に格納されているスロット数が「1」以上であるタスクをスケジューリング対象とする。

【0 3 2 1】

さて、図 2 の残り予約スロットレジスタ 2 0 及び予約スロットレジスタ 2 1, 2 2 からなる予約スロットテーブルが、図 3 に示すように設定され、図 2 の更新スロット指定レジスタ 4 0 ～ 4 3 からなる更新スロット指定テーブルが、図 4 に

示すように設定され、図 2 の優先度レジスタ 5 0 ～ 5 3 からなる優先度テーブルが、図 5 に示すように設定されているとする。

【 0 3 2 2 】

この場合の本実施の形態のバス調停装置 1 のタイムチャートは、図 6 に示したものと同様である。ただし、本実施の形態では、各タスクの各データ転送要求を調停する。

【 0 3 2 3 】

さて、本実施の形態のバス調停装置 1 の処理の流れは、図 7 のフローチャートに示したものと同様である。ただし、本実施の形態では、各タスクの各データ転送要求を調停する。

【 0 3 2 4 】

さて、予め予約スロットが設定されていないタスク 1, 4 が残り予約スロットを使用できるようにするため、タスクマネージャ 1 0 0 は、上述のように、タスク 1, 4 に対応する更新スロット指定レジスタ 4 0, 4 3 に、指定情報として、更新スロットレジスタ 3 0 を表す情報を設定する。

【 0 3 2 5 】

従って、予め予約スロットが設定されていないタスク 1, 4 が、残り予約スロットを使い切った場合は、バス調停装置 1 は、割込み信号線 9 を介して、タスクマネージャ 1 0 0 に、残り予約スロットを使い切ったことを示す割込みを発生させる。

【 0 3 2 6 】

この時点でタスクマネージャ 1 0 0 は、上記割込みを起点に、他のタスク 2, 3 に実行権を渡すことで、予め予約スロットが設定されているタスク 2, 3 のバス帯域幅を保証することが可能となる。

【 0 3 2 7 】

さて、以上のように、本実施の形態によれば、残り予約スロットレジスタ 2 0 が記憶する残り予約スロットを外部からモニタすることで、バスの帯域幅不足により、これから実行しようとするタスクによる処理が破綻するか否かを予め判定できる。

【0 3 2 8】

また、バス帯域割付周期レジスタ 1 0 の設定を外部から変更することで、バス帯域割付周期を変更できる。さらに、予約スロットレジスタ 2 1, 2 2 の設定を外部から変更することで、予約スロットを変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【0 3 2 9】

さらに、タスクが、当該タスクに割り当てられた予約スロットを全て消費した場合、タスクマネージャ 1 0 0 に対して、予約スロットを全て消費した旨が通知される。これにより、無駄なデータ転送要求がなされることを防止できる。

【0 3 3 0】

なお、タスクの種類は、上述したタスク 1 ~ 4 に限定されるものではない。

【0 3 3 1】

図 2 において、予約スロットレジスタ 2 1, 2 2 の数は、2 つに限定されるものではない。1 つでもよいし、3 以上でもよい。

【0 3 3 2】

また、更新スロットレジスタ 3 1, 3 2 も、2 つに限定されるものではない。予約スロットレジスタの数に対応した数の更新スロットレジスタが設けられる。

【0 3 3 3】

また、更新スロット指定レジスタ 4 0 ~ 4 3 は、4 つに限定されるものではない。タスクの数に対応した数の更新スロット指定レジスタが設けられる。

【0 3 3 4】

また、更新スロット指定レジスタに設定する指定情報は、上述したものに限定されるものではなく、任意に設定できる。

【0 3 3 5】

また、優先度レジスタ 5 0 ~ 5 3 は、4 つに限定されるものではない。タスクの数に対応した数の優先度レジスタが設けられる。

【0 3 3 6】

また、優先度レジスタに設定する優先度は、上述したものに限定されるものではなく、任意に設定できる。

【 0 3 3 7 】

さて、次に、実施の形態 2 の変形例を説明する。

この変形例は、実施の形態 1 と実施の形態 2 とを組み合わせたものである。

【 0 3 3 8 】

すなわち、この変形例によるバス調停装置は、複数のモジュールおよび複数のタスクからのデータ転送要求を調停する。

【 0 3 3 9 】

この変形例によるバス調停装置の一例を説明する。この例では、図 2 のバス調停装置において、各タスク用の各予約スロットレジスタおよび各モジュール用の各予約スロットレジスタを設ける。

【 0 3 4 0 】

さらに、各タスク用の各予約スロットレジスタおよび各モジュール用の各予約スロットレジスタに対応して、各更新スロットレジスタを設ける。

【 0 3 4 1 】

さらに、各タスクおよび各モジュールに対応して、各更新スロット指定レジスタを設ける。

【 0 3 4 2 】

さらに、各タスクおよび各モジュールに対応して、各優先度レジスタを設ける。

【 0 3 4 3 】

この場合において、タスクマネージャ 1 0 0 が、CPU 2 上で動作するソフトウェアであるとすれば、変形例によるデータ処理装置の全体構成は、図 1 に示したものと同様になる。

【 0 3 4 4 】

一方、タスクマネージャ 1 0 0 が、CPU 上のタスクを制御可能なハードウェアである場合、あるいは、その双方を組み合わせたタスク制御機構である場合は、変形例によるデータ処理装置の全体構成は、図 1 のデータ処理装置に、図 8 のタスクマネージャ 1 0 0 を加えたものとなる。

【 0 3 4 5 】

変形例によるバス調停装置の他の例を説明する。

この例では、タスクマネージャ 1 0 0 が、C P U 2 上で動作するソフトウェアであるとする。そうすれば、データ処理装置の全体構成は、図 1 に示したものと同様になる。

【0 3 4 6】

また、バス調停装置の構成として、図 2 に示した実施の形態 1 のバス調停装置を使用できる。

【0 3 4 7】

この例では、C P U 2 がタスクマネージャ 1 0 0 と考えることができる。従って、C P U 2 に対応する更新スロット指定レジスタ 4 0 に、指定情報として、タスクに対する更新スロットレジスタを設定する。

【0 3 4 8】

例えば、指定情報として、更新スロットレジスタ 3 0 を設定できる。この場合は、タスクマネージャ 1 0 0 が管理するタスクは、残り予約スロットレジスタ 2 0 に格納された残り予約スロットを消費することになる。

【0 3 4 9】

また、例えば、指定情報として、更新スロットレジスタ 3 1 を設定できる。この場合は、タスクマネージャ 1 0 0 が管理するタスクは、予約スロットレジスタ 2 1 に格納された予約スロットを消費することになる。

【0 3 5 0】

この場合の具体的事案を示す。

C P U 2、つまり、タスクマネージャ 1 0 0 が管理する図 1 及び図 2 で示されるシステムにおいて、V C E 3 による動画像伸張処理後に、C P U 2 で実行される特殊効果処理タスクが、画像データに対してフィルタ処理などの特殊効果を施す処理までを、動画像圧縮伸張処理とする。

【0 3 5 1】

このとき、V C E 3 に対応する更新スロット指定レジスタ 4 1 および特殊効果処理タスクに対応する更新スロット指定レジスタ 4 0 の双方において、更新スロットレジスタ 3 1 を設定することにより、V C E 3 の処理および C P U 2 上の特

殊効果処理タスクによる処理からなる動画像伸張処理のバス帯域幅を保証することが可能となる。

【0 3 5 2】

さて、タスクの優先度については、次のようになる。CPU 2 に対応する優先度レジスタ 5 0 に格納された優先度が、タスクの優先度となる。

【0 3 5 3】

【発明の効果】

請求項 1 記載のバス調停装置では、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する残り予約バス帯域幅を外部からモニタすることで、バスの帯域幅不足により、これから実行しようとするモジュールによる処理が破綻するか否かを予め判定できる。

【0 3 5 4】

また、バス帯域割付周期記憶手段の設定を外部から変更することで、バス帯域割付周期を変更できる。さらに、予約バス帯域幅記憶手段の設定を外部から変更することで、予約バス帯域幅を変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【0 3 5 5】

請求項 2 記載のバス調停装置では、より多くのモジュールに対して、バス帯域幅を予め予約できる。

【0 3 5 6】

請求項 3 記載のバス調停装置では、無駄なデータ転送要求がなされることを防止できる。

【0 3 5 7】

請求項 4 記載のバス調停装置では、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する残り予約バス帯域幅を外部からモニタすることで、バスの帯域幅不足により、これから実行しようとするモジュールによる処理が破綻するか否かを予め判定できる。

【0 3 5 8】

請求項 5 記載のバス調停装置では、バス帯域割付周期記憶手段の設定を外部か

ら変更することで、バス帯域割付周期を変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【 0 3 5 9 】

請求項 6 記載のバス調停装置では、予約バス帯域幅記憶手段の設定を外部から変更することで、予約バス帯域幅を変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【 0 3 6 0 】

請求項 7 記載のバス調停装置では、無駄なデータ転送要求がなされることを防止できる。

【 0 3 6 1 】

請求項 8 記載のバス調停装置では、より多くのモジュールに対して、バス帯域幅を予め予約できる。

【 0 3 6 2 】

請求項 9 記載のバス調停装置では、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する残り予約バス帯域幅を外部からモニタすることで、バスの帯域幅不足により、これから実行しようとするタスクによる処理が破綻するか否かを予め判定できる。

【 0 3 6 3 】

また、バス帯域割付周期記憶手段の設定を外部から変更することで、バス帯域割付周期を変更できる。さらに、予約バス帯域幅記憶手段の設定を外部から変更することで、予約バス帯域幅を変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【 0 3 6 4 】

請求項 1 0 記載のバス調停装置では、より多くのタスクに対して、バス帯域幅を予め予約できる。

【 0 3 6 5 】

請求項 1 1 記載のバス調停装置では、無駄なデータ転送要求がなされることを防止できる。

【 0 3 6 6 】

請求項 1 2 記載のバス調停装置では、残り予約バス帯域幅記憶手段が記憶する

残り予約バス帯域幅を外部からモニタすることで、バスの帯域幅不足により、これから実行しようとするタスクによる処理が破綻するか否かを予め判定できる。

【0 3 6 7】

請求項 1 3 記載のバス調停装置では、バス帯域割付周期記憶手段の設定を外部から変更することで、バス帯域割付周期を変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【0 3 6 8】

請求項 1 4 記載のバス調停装置では、予約バス帯域幅記憶手段の設定を外部から変更することで、予約バス帯域幅を変更できる。その結果、ユーザの利便性の向上を図ることができる。

【0 3 6 9】

請求項 1 5 記載のバス調停装置では、無駄なデータ転送要求がなされることを防止できる。

【0 3 7 0】

請求項 1 6 記載のバス調停装置では、より多くのタスクに対して、バス帯域幅を予め予約できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態 1 におけるデータ処理装置のブロック図

【図 2】

同バス調停装置のブロック図

【図 3】

同予約スロットテーブルの例示図

【図 4】

同更新スロット指定テーブルの例示図

【図 5】

同優先度テーブルの例示図

【図 6】

同バス調停装置による処理を説明するためのタイムチャート

【図 7】

同バス調停装置のフローチャート

【図 8】

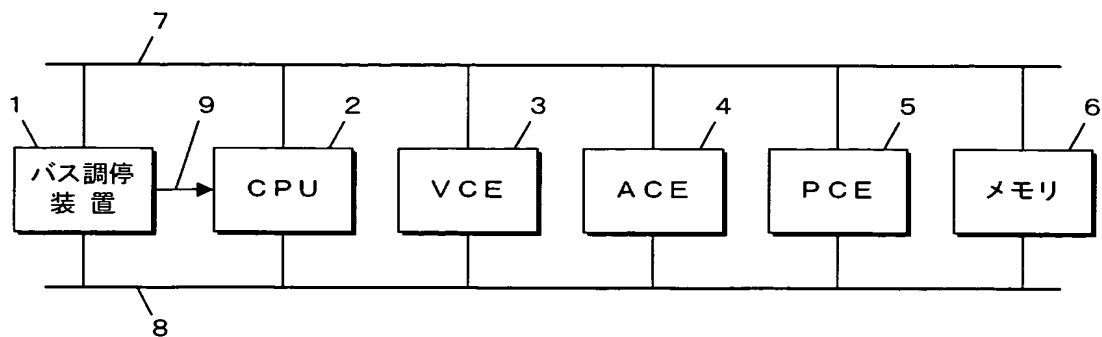
本発明の実施の形態 2 におけるデータ処理装置のブロック図

【符号の説明】

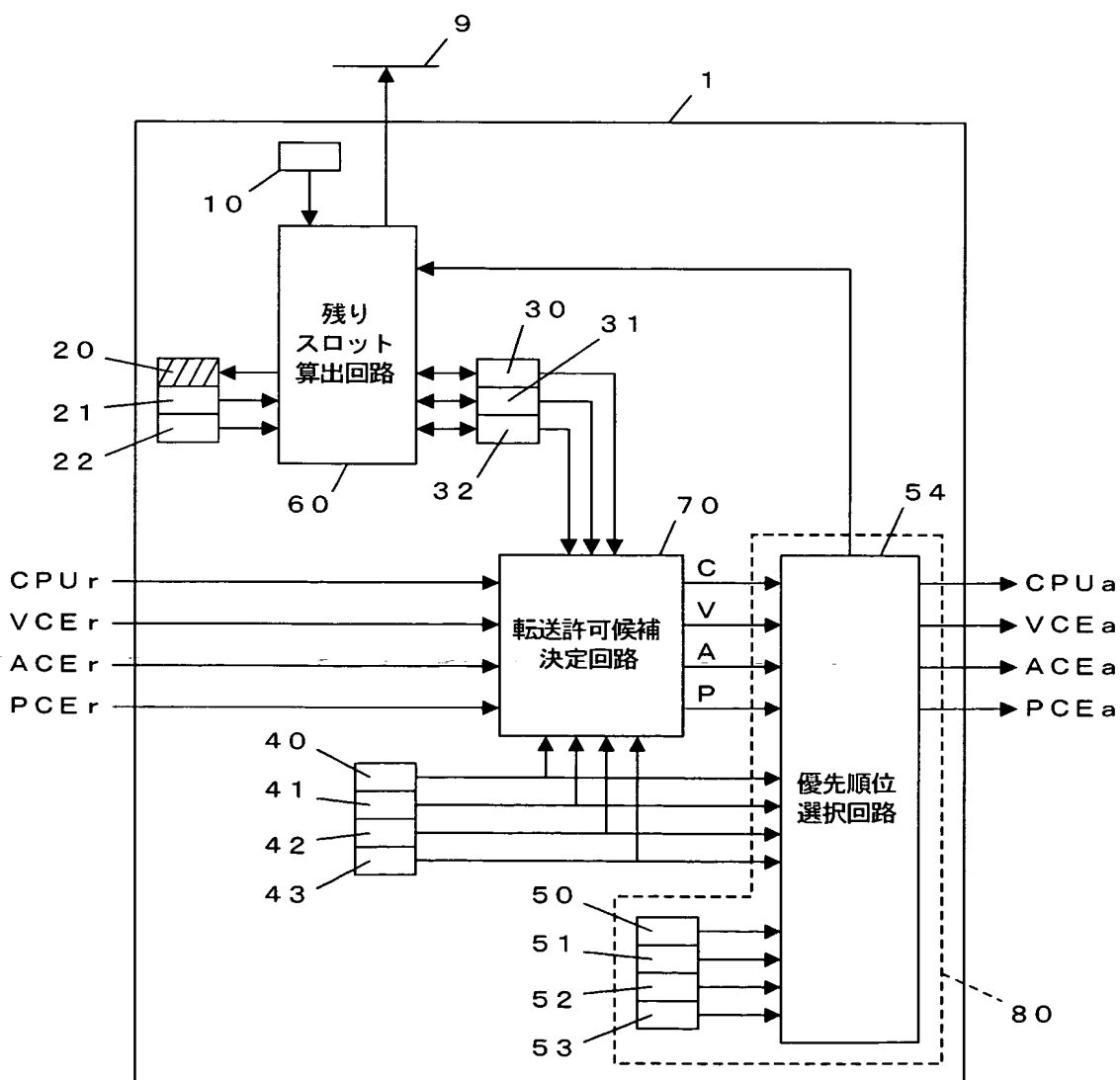
- 1 バス調停装置
- 2 C P U
- 3 V C E
- 4 A C E
- 5 P C E
- 6 メモリ
- 7 データ転送制御線
- 8 バス
- 9 割り込み信号線
- 1 0 バス帯域割付周期レジスタ
- 2 0 残り予約スロットレジスタ
- 2 1, 2 2 予約スロットレジスタ
- 3 0 ~ 3. 2 更新スロットレジスタ
- 4 0 ~ 4 3 更新スロット指定レジスタ
- 5 0 ~ 5 3 優先度レジスタ
- 5 4 優先順位選択回路
- 6 0 残りスロット算出回路
- 7 0 転送許可候補決定回路
- 8 0 転送許可決定回路
- 1 0 0 タスクマネージャ

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



【図 3】

予約スロットテーブル

バス帯域割付周期レジスタ 1 0	1 0
予約スロットレジスタ 2 1	3
予約スロットレジスタ 2 2	2
残り予約スロットレジスタ 2 0	5

【図 4】

更新スロット指定テーブル

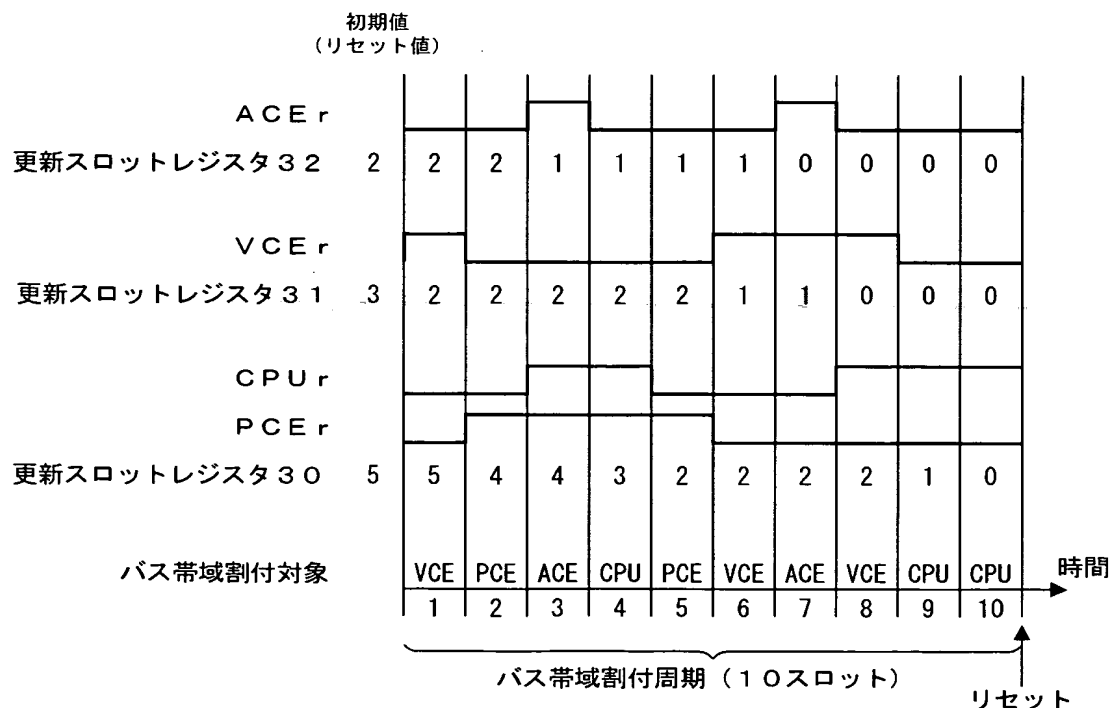
CPU用 予約スロット指定レジスタ 4 0	0
VCE用 予約スロット指定レジスタ 4 1	1
ACE用 予約スロット指定レジスタ 4 2	2
PCE用 予約スロット指定レジスタ 4 3	0

【図 5】

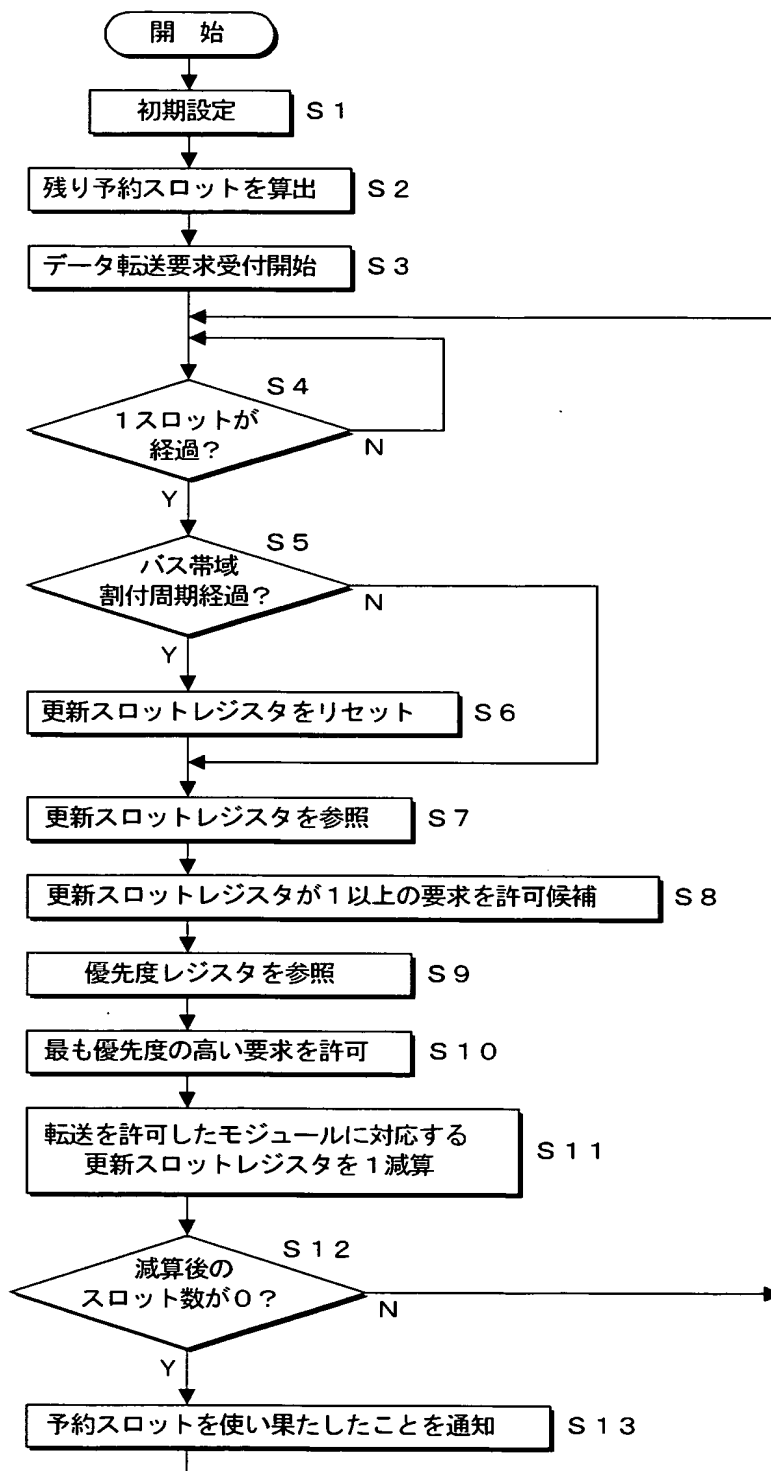
優先度テーブル

CPU用 優先度レジスタ 5 0	2
VCE用 優先度レジスタ 5 1	1
ACE用 優先度レジスタ 5 2	0
PCE用 優先度レジスタ 5 3	3

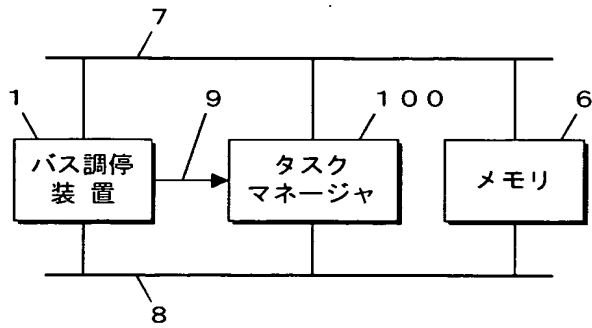
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 バスの帯域幅不足により処理が破綻するか否かを予め判定できるバス調停装置を提供する。

【解決手段】 バス帯域割付周期レジスタ 1 0 は所定のスロット数で規定されるバス帯域割付周期を記憶する。予約スロットレジスタ 2 1 はリアルタイム処理を実行する V C E 3 に予め割り当てる予約スロットを記憶する。予約スロットレジスタ 2 2 はリアルタイム処理を実行する A C E 4 に予め割り当てる予約スロットを記憶する。残り予約スロットレジスタ 2 0 は、バス帯域割付周期から、V C E 3 及び A C E 4 の予約スロットを差し引いた結果を記憶する。残り予約スロットレジスタ 2 0 を外部からモニタすることで、バスの帯域幅不足により、これから実行しようとする処理が破綻するか否かを予め判定できる。

【選択図】 図 2

特願 2003-000818

出願人履歴情報

識別番号

[000005821]

1. 変更年月日

1990年 8月28日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府門真市大字門真1006番地

氏 名

松下電器産業株式会社